

群 教 セ	G01 - 02
	平25.249集
	小・国語

# 情報を活用し、 自分の考えをもつことのできる児童の育成

— 「並行読書型授業プラン」の作成と活用を通して —

長期研修員 井熊 美保

**キーワード** 【国語一小 情報の活用 自分の考え 並行読書 授業プラン】

## I 主題設定の理由

今日、子どもたちは、図書や新聞、テレビ、インターネットなどの様々なメディアからの多種多様な情報に囲まれて生活している。このような中、平成8年の中央教育審議会の第1次答申において「真に必要な情報を取捨選択し、自らの情報を発信し得る能力を身に付けることは、子どもたちにとってこれからますます重要」といった指摘がされた。そして、それ以降、子どもたちが自らの力で情報を活用していくことの重要性への注目がされてきた。このような時代背景やPISA調査における我が国の児童生徒の課題等を受けて、国語科においては、従来の文字言語による「理解」による受信型の国語の学習だけでなく、自らの考えを基にした「表現」を中心とした発信型の学習が重視されてきている。これは、現行の学習指導要領の改訂の趣旨の中で、内容の改善で重視することとして「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力の育成」が挙げられていることから明らかである。さらに、「はばたく群馬の指導プラン」においても、児童生徒の課題として「考えたことを表現する力や日常生活と結び付ける力」が挙げられ、課題解決のための取組例が示されている。このことは、所属校の児童の実態で、「感想や自分の体験は書けるが、文章等から読み取ったことを活用し、自分の考えをもち、表現すること」に課題があると感じている点で、同様である。

このような学習指導要領の改訂の趣旨や課題等から重視される「情報を活用すること」と「表現すること」に関連することとして、小学校学習指導要領「読むこと」の指導事項「目的に応じた読書」を受け、中学校学習指導要領「読むこと」の指導事項「読書と情報活用」の第1学年では、本や文章などから得た内容を「情報」とし、集めた資料から「必要な資料を読み取ること」が位置付けられている。この情報の活用に関して、小学校では、中学年における「複数の文章を読む」こと、高学年における「比べて読む」ことで「様々な違いを発見する喜びを知り、知識や情報を得ることができるようになる」と、その系統性が示されている。このことから、小学校において情報を活用する学習を取り入れることができなかと考えた。より多くの情報に出会うことで、児童は多様な見方や価値観、表現方法に触れることができ、表現することを通して自分なりの考えをもつことができるようになるのではないだろうか。そのためには、教科書教材を読み取っていく授業に加えて、多くの情報に出会うための教材を取り入れた授業へと転化を図る必要がある。つまり、「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力」を育成するためには、小学校において情報の活用を意識した授業の工夫が大切なのである。

以上のことから、本研究においては、国語科での「情報の活用」について、言語で理解できる教材の中から取り出した事柄を「情報」とし、情報の中から必要なことを選択して読み取り、それらを、話す、書くといった自分の考えを表現するための材料として取り入れることを「活用する」と考え、情報を活用する授業の在り方を構想していくこととした。そして、情報を活用した授業の工夫として教材の複数化による学習に着目した。一つの教材を基にした読解中心の学習ではなく、他の文章を情報として学習に取り入れて並行して読み取っていく学習は、児童が相違点や類似点を見付けたり、関連性に気付いたりしながら新たな発見ができる学習である。この学習を「並行読書型授業プラン」として、自分の考えをもつことのできる力を育成することを目指し、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

教材の複数化を取り入れた学習についての先行研究の分析と実態調査の結果分析を基に、国語科の「読

むこと」の領域における「並行読書型授業プラン」を作成し、その実践を通して、情報を活用する学習が自分の考えをもつことのできる児童の育成の手だてとなることを明らかにする。

### Ⅲ 研究の見通し

#### 1 先行研究と実態調査からの並行読書型授業プランの作成

複数の教材を取り入れた学習の先行研究の分析と、児童が自分の考えをもつために資料の活用がどのようにかわるのかという実態調査等の結果の考察により、自分の考えをもつことのできる児童の育成を目指した並行読書型授業プランを作成することができるであろう。

#### 2 並行読書型授業プランを取り入れた授業実践

国語科の「読むこと」の領域において、並行読書型授業プランを取り入れれば、自分の考えをもつことのできる児童を育成できるであろう。

### Ⅳ 研究内容の概要

本研究は、小学校国語科の「読むこと」の領域において、教材を複数化する並行読書に着目し、授業において情報を活用する学習を展開する「並行読書型授業プラン」を作成して、それを実践することにより、自分の考えをもつことのできる児童の育成を目指したものである。

まず、先行研究の分析から、教材を複数化した学習についての基本的な研究を行った。また、自分の考えをもつことのできる力の育成と情報を活用することの関係性を明らかにするために、所属校の児童の実態調査結果を分析し、有効な手だてを整理した。そして、これらの考察を通して、内容を理解することと表現することをねらいとする学習へ情報を活用する学習を取り入れた「並行読書型授業プラン」の作成を試みた。

次に、作成した「並行読書型授業プラン」の授業実践を行った。実践は、『並行読書型授業プラン～読みを深めることへの活用～』として文学的教材「ポレポレ」と説明的教材「メディア・リテラシー入門」を、『並行読書型授業プラン～表現することへの活用～』として文学的教材「ごんぎつね」を取り上げた。

以上の研究から、情報を活用する学習としての並行読書を取り入れた「並行読書型授業プラン」を作成し、実践することにより、表現することを通して自分の考えをもつことのできる児童の育成が図れることを明らかにした。

### Ⅴ 研究のまとめ

#### 1 成果

- 複数の教材を情報として比較する並行読書型授業プランでは、児童が筆者の考えとその根拠を理解したり、教科書教材で習得した知識・技能を生かしてお気に入りの本を紹介したりすることができた。情報の活用が、読みを深め、自分の考えをもつことへの手だてとなった。
- 類似点をもった作品の一部を情報として比較、関連付けをする並行読書型授業プランでは、児童は、登場人物の心情について考えたり、作品のテーマを自分の経験と照らし合わせて考えたりすることができた。情報の活用が、自分の考えを表現することへの手だてとなった。
- 教科書教材だけでなく関連教材を取り入れる並行読書型授業プランが、児童の教材への興味を高め、自分の考えをもつことのできる学習であることが明らかになった。

#### 2 課題

- 他学年や他の領域において並行読書型授業プランが有効な単元を明確にしたり、ねらいに即した関連教材の選定を行ったりする必要がある。
- 関連教材の選定に当たっては、指導者が様々なジャンルの文章に触れさせる意図をもって選定するなど、児童の読書活動が充実するための工夫をしていく必要がある。

## VI 研究の内容

### 1 「情報を活用し、自分の考えをもつ」とは

#### (1) 国語科における情報を活用する力

たくさんの情報に囲まれて生活している私たちは、複数の情報の中から、情報の正確さや必要性を読み取り判断することが求められる。そして、得た情報を自分の考えを言語化する材料としたり、それらから新しい発見をして自分の考えを広げたり深めたりしている。このことから、国語科において情報を活用する学習は必要であると考え、国語科において「情報を活用する」ことについて定義付けを行った。

本研究において、国語科における「情報」とは、説明的文章や文学的文章といった言語で理解できる教材の中から取り出した事柄であり、「活用」とは、情報を読み取り、必要なことを選択して、自分の考えを書いたり話したりする表現することの材料として取り入れることであると考えた。

情報を活用する力を身に付けるためには、情報を比較したり、関連付けたりしながら、分析、評価、論述するといった言語活動を取り入れることが必要となる。具体的には、「情報を分析」し、「情報を評価」しながら「情報を基に論述」という児童の思考の流れを育てることである。しかし、教科書教材だけの読み取りでは、比較からの相違点や類似点をとらえることは難しい場合が多いと考えられる。そこで、比べるための情報を提示することが、情報を比較・関連付けして分析・評価する思考や判断を生み出すきっかけや練習になるのではないだろうか。そのような学習の繰り返しによって文章への理解を深め、自分の考えをもつことができるようになるものと考えられる。また、情報となる教材同士の関連性が高いことが、児童の教材に対する興味や関心、学習意欲を高めることにもつながり、読みの技術の習得を図ることができるようになるものと考えられる。

国語科において情報を活用する学習とは、情報を活用することで自分の考えをもつことのできる力を育成することを目的として、情報として教科書教材とそれに関連する教材を扱う学習であるととらえる。

#### (2) 「自分の考えをもつ」とは

児童が自分の考えをもつことのできる姿とは、読んだり聞いたりした情報を、自分の知識や経験と比べて理解し、その結果、生まれた思いや意見、感想といった考えを自分の言葉で言語化して表現することであるととらえる。

所属校の児童には、文章内容を自分自身の生活と照らし合わせて理解したり、自分の考えを表現したりする活動になると戸惑ってしまう姿が見られることが多い。それは、必要な情報を使うことができず、どのように表現すれば良いのか分からないことが原因としてあると考えられる。そこで、児童が「分からない」という状態や自分の考えを広げられずにいる状態から抜け出し、情報に興味をもち、情報を活用しながら自分の思いや考えを言語化していく姿を細分化してとらえる必要がある(図1)。

自分の考えをもつことのできる児童に育てるためには、情報を吟味、精査しながら取り出し、それらを比べたり、組み合わせたりしながら、自分の言葉で考えをまとめることができる力を伸ばすことが大切であると考えられる。

さらに、学習活動においては、以下のような具体的な姿が見られた時、自分の考えをもつことができたとする。

- ①情報が複数あることを知り、目を向けることのできる姿
- ②複数の情報の中から、必要な情報を選び取っている姿
- ③情報からヒントを得て、自分の考えを言語化している姿

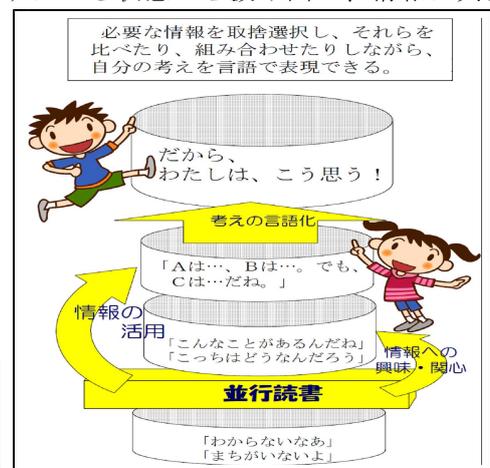


図1 児童の具体的姿の細分化

### 2 並行読書型授業プランとは

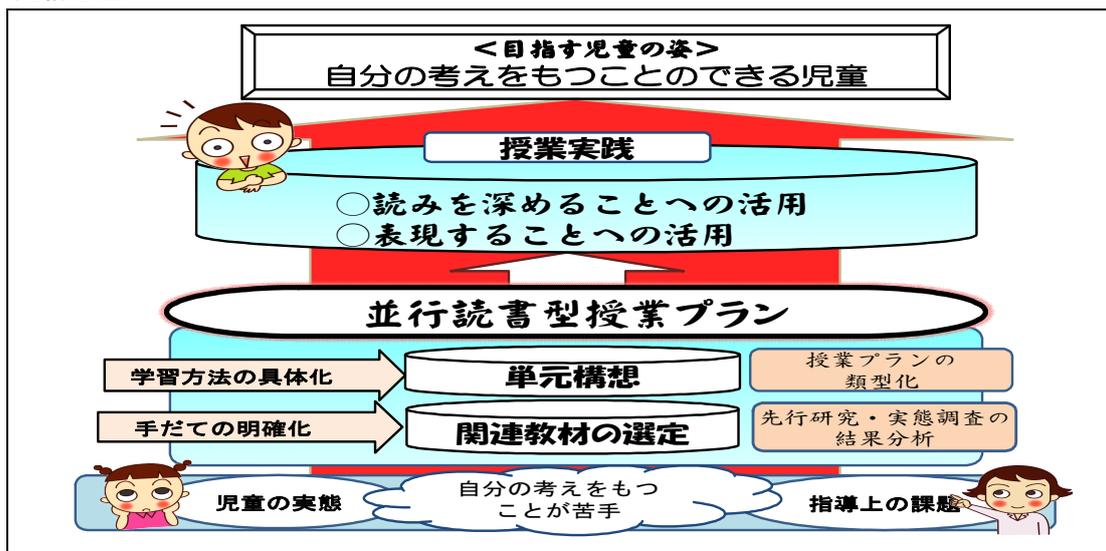
並行読書について先行研究でみると、「紹介する」または「推薦する」という言語活動のまとめのために、教科書教材の学習と並行して「お気に入りの本」を家庭学習で読んでいく取組や教科書教材

と関連教材とで比べ読みをするという取組で実践されてきている。つまり、教材の複数化に注目した実践ということである。

これらの先行研究を基に、本研究では、並行読書のさらなる学習効果に着目した。並行読書を取り入れた学習は、複数の教材を取り入れて単元のねらいに迫っていく学習としてとらえるということである。これは、教科書教材と並行読書をしていく教材（以下、関連教材とする）を組み合わせる扱い、授業への取り入れ方を工夫して単元を構想するものである。つまり、従来の並行読書を取り入れた学習に情報を活用する視点を取り入れた学習と考える。これを「並行読書型授業プラン」とする。

本研究では、先行研究の分析と児童の実態調査を基に、「並行読書型授業プラン」の作成を試みる。

### 3 研究構想図



## VII 実践の計画と方法

実践内容		実践方法
並行読書型 授業プラン の作成	先行実践と指導計画の類型の研究	先行研究の整理
	情報を活用する力の実態調査	所属校児童への実態調査の実施
	並行読書型授業プランの作成	文献と実態調査の分析
並行読書型 授業プラン の授業実践	読みを深めることへの活用①	研究協力校での授業実践による検証 ・説明的文章教材での実践（4年・6年） ・文学的文章教材での実践（4年）
	読みを深めることへの活用②	
	表現することへの活用	

## VIII 実践の結果と考察

### 1 並行読書型授業プランの作成

#### (1) 先行研究から見た並行読書の実践と指導計画の類型

##### ① 並行読書の実践について

石丸憲一氏は、並行読書を教科書教材以外の教材と一緒に扱う複数教材化ととらえる視点から、「複数教材化を採り入れる背景や理由として①単元学習のための複数教材化②作品論、作家論的なアプローチのための複数教材化③読書指導のための複数教材化④精読主義から多読主義へと指導観を変更するための複数教材化⑤読解力向上のための複数教材化⑥学習指導要領の最低基準化に伴う発展的教材の有効利用のための複数教材化」の6点に分類して、その効果と問題点を分析している（2013）。そして、複数教材化について「その機能も、授業で目指すことのできる目標も多様であり、様々な状況において採り入れることができる」としている。

その中で、石丸氏は、複数教材化の効果として、二瓶弘行氏の実践（1998）の「複数作品の読書行為が一つの作品の読みの深化を促す」、川上弘宜氏の実践（2003）の「主教材を再度検討し、より

深く読ませることができるこの方法は、子どもの読解力を向上・定着させるのに有効なものである」を挙げている。同時に問題点として、授業者が副教材を選定することで、「教師の意図が加わると、教師が読みのルールを敷いてしまうことになり読者である子供の主体的な読みを阻害してしまう」という点を指摘している。しかし、「授業の意図が最大限に生かされるような複数教材化の在り方を採り入れなければならない。そうすれば、複数教材化は特別な手法ではなく、学習者の読みを支える学習法の一つとして機能するようになる」と述べている。

また、水戸部修治氏は、「お気に入りの本」の紹介をする並行読書の活動などで、「読む能力の基盤としての選書の機会と読書量の確保」が図れるとしている（2013）。さらに、単元を貫く言語活動を位置付けることが従来の国語科授業の課題を克服する授業改善のための手だてになるとする中で、児童が読みを深めるための言語活動の一つとして、並行読書を取り入れた授業づくりを提案している。

これら先行研究から、複数の教材を取り入れた学習は、児童の読みを深めることに有効であることが明らかとなった。

## ② 指導計画の類型

指導形態については、山下敦子氏が、複数教材を活用した指導計画として、図2に示すように四つの形態に類型化している（2008）。

山下氏は、複数教材の扱いを比べて読む活動として単元に取り入れた指導計画を作成している。比べることに重点を置いた場合は、

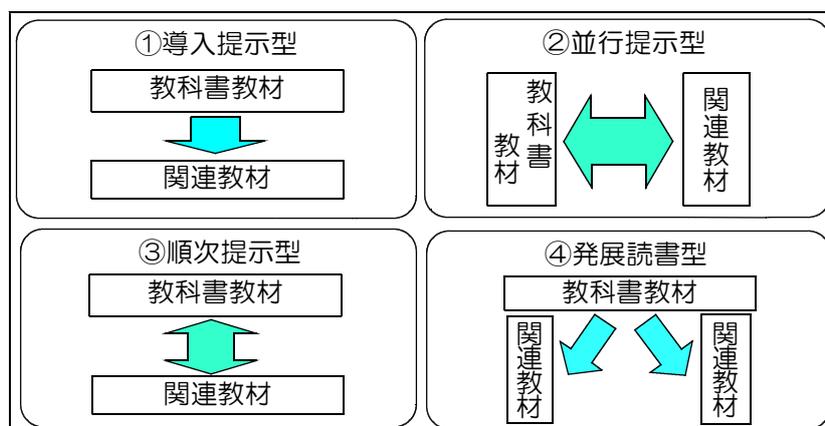


図2 山下氏による指導計画の類型

②並行提示型③順次提示型の指導計画を作成することになる。比べて読む活動を取り入れることで、教材それぞれの内容や構成及び表現方法の工夫などをとらえやすくなるとし、指導計画の作成にあたっては、児童の実態や教材の特性を考慮した形態の組み合わせも行っている。

山下氏の研究では複数教材化の学習では、指導計画を中心にした単元構成が重要であるということが見えてきた。このことから本研究では、複数の教材を取り入れた学習を指導計画に位置付ける点に注目し、並行読書をどの場面でのどのように取り入れていくのかという指導計画への明確な位置付けを授業プランで行うこととした。

## (2) 情報を活用する力の実態調査と考察

所属校の6年生に以下のような調査を行った。（実施日：10月7日 24名）

調査1 目的「新たな情報を追加することで、自分の考えをもつことができるか」  
山村暮鳥の詩「りんご」を解釈して自分の考えをまとめる。

### ① 詩だけを提示して感じたことを書く（表1）

「作者の気持ちを想像して書いている」38%のうち、「悲しい、さみしい」5名、「嬉しい、楽しい、幸せ」3名、「何かを表している」1名だった。いずれも「かかえきれないこの気持」の記述に着目できてはいるが、「林檎」が何を象徴しているのか、

「かかえきれない気持」とは、どんな気持ちなのか自分の言葉で表現することができなかった。文末表現も「～のような気がする」「～かなあと考えた」という曖昧なものであった。

### ② 詩の解釈文を追加して、感じたことを書く（表2）

資料A「日あたりにあるりんごは暖かく、私は幸せである」資料B「日あたりにあるりんごはさみしそう。わたしも、ひとりぼっちである」という内容の二つの解釈文を追加して児童に提示し、改めて自分の考えを書くことを行った。

表1 調査1-①児童の状況

作者の気持ちを想像して書いている	38%
りんごが転がっている情景のみを書いている	62%

新しい情報を得ることで、「林檎」が心情を映す象徴であることや「かかえきれない気持」には、いろいろな感じ方が存在することを理解することができた。また、記述の文末表現も「～と思う」「～です」という記述に変わり、詩を自分なりに解釈して自分の考えに自信をもつことができたことが分かる。二つの解釈文の比較、関連付けが文章の解釈に活用されたと考えられる。

表2 調査1-②児童の状況

資料AとBで共感した文章を基に自分の感じたことを書いている	39%
資料AとBを比べて自分の解釈を加えている	16%
資料AとBから考えられる情景を記している	12%
解釈文への感想を書いている	33%

**調査2 目的「二つの文章を比較することで、自分の考えをもつことができるか」**

インターネットの利用に関して主張の異なる二つの文章を読んで、自分の考えをまとめる。

資料C「ネット依存どうなるの？」(毎日小学生新聞 2013. 8. 16)

資料D「インターネットの利用方法」(インターネット・セキュリティ情報サイトより)

**① 資料Cを読んで自分の考えをまとめる**

資料の内容を引用してネットの使い方についての考えを書いた児童が46%、ネットの怖さを知ったという感想を書いた児童が54%だった。初めて知った情報で「ネットはこわいと思った」など、危険について知ったという記述が多かった。記事の中の「ルールを作り」「大人の言うことを聞いて」という記述を引用して、自分の考えとしている。また、「危険だからやらないほうがいい」という考えもあった。いずれも、内容の記述から引用したり感じたりしたことを記していた。

**② 資料CとDを比較して自分の考えをまとめる(表3)**

インターネットには短所と長所があることを資料から読み取り、新しい知識としてまとめる書き方が多く、相反する考え方に触れることで知識を広げることができたことが分かる。しかし、資料等を関連付けて考え、そこから自分の考えを形成するために必要な情報を選択することはできなかったと考える。

資料Cだけを読んだ際には、内容の記述を鵜呑みにした状態で、ネットの怖さや使い方について資料の主張のとおり自分の考えを記述する様子が見られたが、新たな情報が児童の思考に揺さぶりを掛けることになったと考える。これは、資料Cのインターネットを利用することの短所を踏まえて、資料Dでインターネットの便利さという長所について考えられていることから、二つの資料の相違点をとらえていることは明らかであるからである。

表3 調査2-②児童の状況

資料CとDの内容を引用、要約して分かったことを書いている	62%
資料CとD内容を比較、関連付けて自分の考えを書いている	38%

これら二つの調査から、児童は相違点のはっきりした情報を目の当たりにした時、まず、それらを自分の経験から生まれる考えと照らし合わせる「情報の分析」を行い、それらの中から自分が必要と思う情報を取り入れようと「情報の評価」を行っていることが分かる。これは、調査1、2で、二つの文章の内容を比べる記述があったり、どちらかの考えを選んでいたりすることでも分かる。しかし、「情報を基にした論述」の段階になると、自分の考えに情報を関連付けることが十分にできているとは言えなかった。

**(3) 並行読書型授業プラン**

**① 情報を活用する学習について**

本研究においては、先行研究の分析と実態調査の結果から、「関連教材の選定」と「単元構想」を中心に並行読書型授業プランの作成を試みることにする。

単元において、児童にどんな力を身に付けさせたいのか、どのような事項を中心に読み取るのかを明確にとらえた上で、児童の読みを深め、考えをもてるようにするために効果的な関連教材を選択することは重要である。単元構想については、児童が並行読書に必要感をもち、意欲的に読み取っていけるように、関連教材を学習指導のどの部分でどのように取り入れていくのかという並行読書の位置付けの工夫も必要である。情報を活用することで、自分の思いや願いを言語化していく児童の思考の流れと、並行読書型授業プランでの「読むこと」の領域、説明的文章と文学的文章の学

び方を次のように考えた（図3）。なお、並行読書の位置付けは、学び方を基に、学習のねらいと照らし合わせて設定することとする。

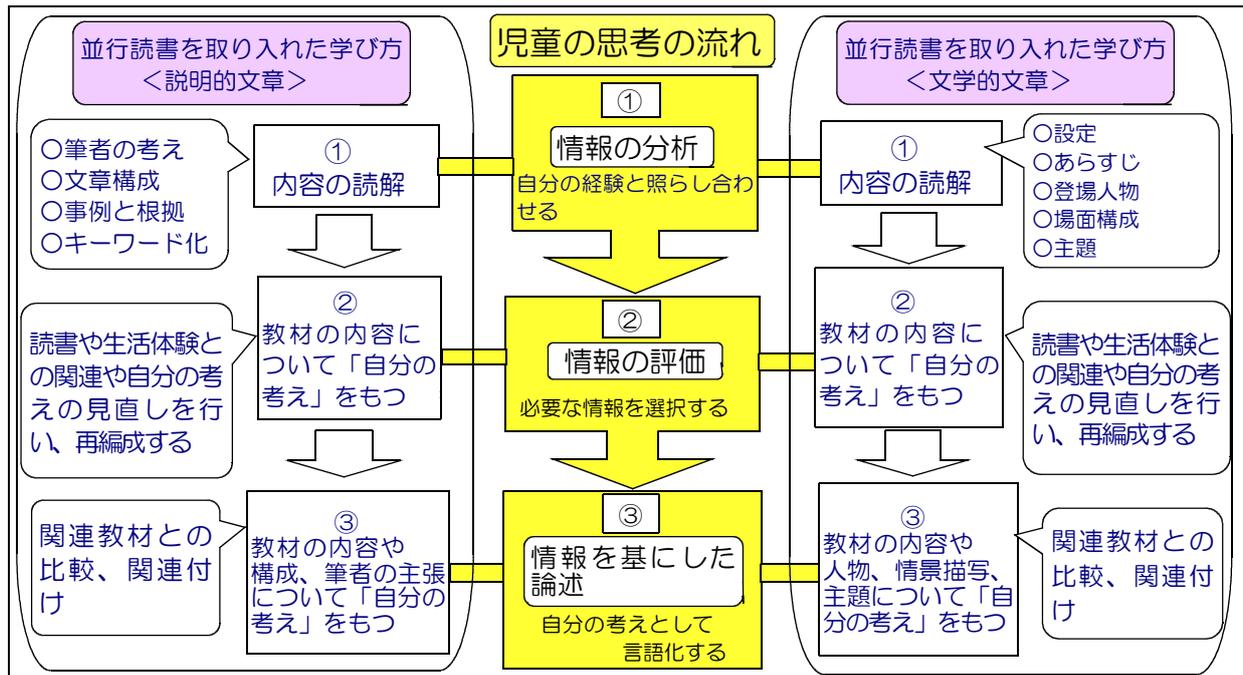


図3 並行読書型授業プランによる学び方

上記図3で示したような情報を活用する児童の思考の流れを学習の中で具体化する時、学習の形態として、以下のように考える。

読書生活を広げるために情報を活用する学習	(以下、興味を広げることへの活用)
読みを深めるために情報を活用する学習	(以下、読みを深めることへの活用)
自己を表現するために情報を活用する学習	(以下、表現することへの活用)

「興味を広げることへの活用」とは、関連教材が、児童が新たな興味や高い関心をもつことに生かされるということである。ここでの関連教材とは、同じ作者・筆者の文章やシリーズとしての他の作品、同じテーマ性をもった文章などのことである。関連教材を知ること、教科書教材に限定されがちであった興味が広がり、読書生活の広がりへの期待ができる。これは、従来の学習でも導入での図書紹介や発展読書といった方法で取り入れられてきている。

「読みを深めることへの活用」とは、並行読書が「相手・目的・場所を考えて情報を理解したり伝えたりする」「多面的・多角的に物事を見る」「情報を的確に分析する」などの国語科における読みの技能を習得することに生かされるということである。教科書教材の読みに獲得した知識や技能をすぐに他の教材で確かめるといった活動を取り入れることで、理解を深められ、自分の考えをもつことができる。先行研究の多くが読みを深める学習で複数教材化を図っているのも、このような読みの技術の習得をねらいとしているからである。振り返りの時間を適切に組み入れていくことで、「自分は何ができるようになって、何ができないのか」というメタ認知が生まれると考える。

「表現することへの活用」とは、並行読書が、情報と自らの知識や経験とを照らし合わせる分析・評価という児童の思考を生み出し、さらに、自分の考えをもつことに生かされるということである。教科書教材と関連教材の読み取りを基に、文章を解釈して紹介、推薦したり、表現技能などを参考に文章を書いたりするを通して自分の考えをもち、自信をもって相手と伝え合うことができるということであると考える。

## ② 並行読書型授業プランの類型について

本研究では、読みを深めるという手だてとして取り入れられていた複数教材化の考え方を、児童が自分の考えをもてるようにするための手だてとして、授業プランに類型化することとする。複数の教材という情報を活用して読みを深めることが、自分の考えをもつことのできる児童の育成につながるからである。授業を「並行読書型授業プラン」とし、達成したいねらいに着目する

観点から、次のように類型を試みた。

**Plan① 興味を広げることへの活用** (読書生活を広げるために情報を活用する学習)

関連教材	
同じ作者の書いた他の文章、同じテーマ、同じジャンル、シリーズ、	
学習例	
1年	「どうぶつのあし」動物に関する文章
2年	「お手紙」がまくんとかえるくんシリーズ
3年	「モチモチの木」齋藤隆介の作品
4年	「白いぼうし」「車のいろは空のいろ」シリーズ
5年	「大造じいさんとガン」椋鳩十の作品
6年	「きつねの窓」安房直子の作品

**Plan② 読みを深めることへの活用** (読みを深めるために情報を活用する学習)

関連教材	
同じ作者の書いた他の文章、同じテーマ、同じジャンル、シリーズ、指導事項に適した文章（一部だけを扱っても良い）	
学習例	
2年	「お手紙」がまくんとかえるくんシリーズ
4年	「ポレポレ」児童が選ぶお気に入りの本
6年	「メディア・リテラシー入門」情報に関する文章

**Plan③ 表現することへの活用** (自己を表現するために情報を活用する学習)

関連教材	
同じ作者の書いた他の文章、同じテーマ、同じジャンル、シリーズ、指導事項に適した文章（一部だけを扱っても良い）	
学習例	
4年	「ごんぎつね」新美南吉の作品（比較）
5年	「大造じいさんとガン」椋鳩十の作品（推薦）
6年	「メディア・リテラシー入門」情報に関する文章（自分の考えの形成）

Plan①については、関連図書の紹介や発展読書といった方法で多くの国語の授業で取り上げられている方法であると考えられる。本研究では、関連教材の読み取りを指導計画に位置付けることで情報を活用して自分の考えをもつことができるようにすることに着目し、Plan②「読みを深めることへの活用」及びPlan③「表現することへの活用」について実践授業を行った。

## 2 並行読書型授業プランの授業実践

並行読書型授業プランの実践を研究協力校で以下のとおりに行った。

授業プラン	対象	単元名
読みを深めることへの活用	4年	自分のお気に入りの主人公が出てくる物語を紹介しよう「ポレポレ」（学校図書 4年上）
	6年	さまざまなメディアからの情報との付き合い方を考えよう 「メディア・リテラシー入門」（学校図書 6年下）
表現することへの活用	4年	感想交流会をしよう～自分の生活を振り返って～ 「ごんぎつね」（学校図書 4年下）

(1) 並行読書型授業プラン「読みを深めることへの活用」について

① 授業実践1 4年生「ポレポレ」(文学的文章)

対象	研究協力校 小学校第4学年 41名	
実践期間	平成25年7月5日～7月17日 7時間	
単元名	自分のお気に入りの主人公が出てくる物語を紹介しよう「ポレポレ」(学校図書 4年上)	
単元の目標	登場人物の行動や会話から性格や気持ちの変化を読み取り、自分が気に入った主人公の出てくる物語について紹介することができる。	
評価規準	国語への 関心・意欲・態度	気に入った物語の主人公の性格や気持ちの変化についてまとめ、紹介しようとしている。
	読む能力	物語のおもしろさを説明するために、主人公の行動や会話に着目して、性格や気持ちの変化をとらえて読んでいる。 [ウ] 友達の紹介や感想から、感じ方に違いがあることに気付いている。 [オ]
	言語についての 知識・理解・技能	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 [イ(ア)]

指導計画

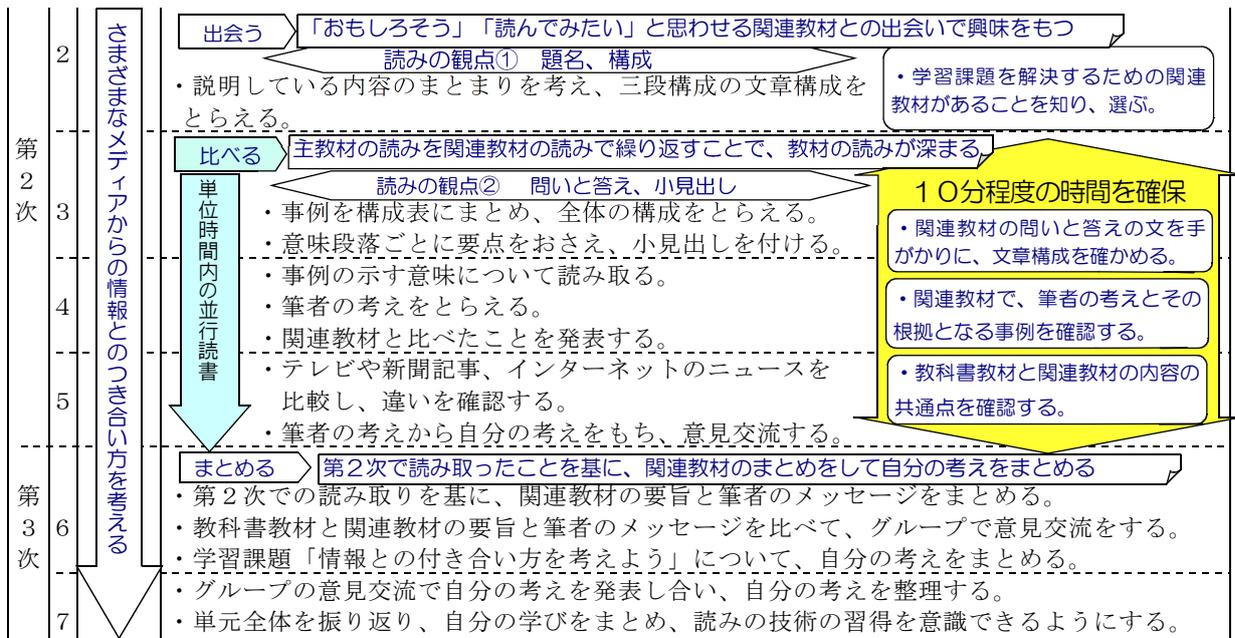
過程時間	言語活動	主な学習活動	関連教材での学習活動
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで読んできた本の中で、自分が気に入った物語を読書マップで紹介し合う。</li> <li>学習課題 <b>おもしろい話見つけた！お気に入りの主人公が出てくる物語を紹介しよう</b></li> <li>指導者が作った学習モデルとしての紹介シートで、学習の見通しをもつ。</li> <li>各自で読んでみたい本を関連教材として選び、並行読書する。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">関連教材での学習活動</div>
		<p><b>出会う</b> → 「おもしろそう」「読んでみたい」と思わせる関連教材との出会いで興味をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主教材「ポレポレ」を読む。(範読)</li> <li>本文を読み、初発の感想を書く。(「読みの観点」に生かす)</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">関連教材の初発の感想を書く</div>
第2次	2	<p><b>比べる</b> → 主教材の読みを副教材の読みで繰り返すことで、教材の読みが深まる。</p> <p>読みの観点① 登場人物、時代、場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物語の作品設定を確認する。</li> <li>物語のあらすじをとらえる。</li> <li>登場人物の行動を手がかりに小見出しを付ける。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">10分程度の時間を確保</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>関連教材について読みの観点①を読み取る。</li> <li>関連教材について読みの観点②を読み取る</li> <li>人物の行動から物語のクライマックスをとらえる</li> </ul>
		<p>読みの観点② 登場人物の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの登場人物の性格を読み取る。</li> <li>主人公の紹介を書く。</li> </ul>	
		<p>読みの観点③ クライマックスと人物の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物語の展開部から登場人物の気持ちの変化と主人公の役割について考える。</li> <li>物語の感想を書いて、発表し合う。</li> </ul>	
第3次	6	<p><b>まとめる</b> → 第2次で読み取ったことを基に、関連教材のまとめをして自分の考えをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2次での読み取りを基に、自分が気に入った物語の紹介シート作る。</li> <li>観点①～③を基に、関連教材について読み取った内容とおすすめポイントをまとめる。</li> <li>紹介シートで気に入った物語を友達に紹介する。</li> <li>友達の紹介シートを基にした発表に対して「感想カード」を書いて交流する。</li> </ul>	
		7	

② 授業実践2 6年生「メディア・リテラシー入門」(説明的文章)

対象	研究協力校 小学校第6学年1組・2組 47名	
実践期間	平成25年10月7日～10月17日 7時間	
単元名	さまざまなメディアからの情報との付き合い方を考えよう 「メディア・リテラシー入門」(学校図書 6年下)	
単元の目標	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえてとらえた要旨や、事実と意見の関係などの読み取ったことを基に、自分の考えをもつことができる。	
評価規準	国語への 関心・意欲・態度	新聞、ラジオ、テレビなど、メディアにはたくさんの種類があることを知り、それぞれの特性を理解して情報を活用しようとしている。
	読む能力	それぞれのメディアの特性やその活用の仕方を内容から読み取り、メディアを活用することについて自分の考えをもっている。 [ウ] 比べて読んだ文章を基に考えたことを発表し合い、自分の考えを深めている。 [オ]
	言語についての 知識・理解・技能	文や文章には、伝え方によって、いろいろな構成があることについて理解している。 [イ(キ)]

指導計画

過程時間	言語活動	主な学習活動	関連教材での学習活動
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書教材についてについて感想をもつ。</li> <li>学習課題 <b>さまざまなメディアからの情報との付き合い方を考えよう</b></li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">関連教材での学習活動</div>



### ③ 結果と考察

実践1の文学的文章「ポレポレ」では、登場人物に着目して読みを深めるという観点で、「おもしろい主人公が出てくる本を紹介しよう」というテーマで読書マップを作り、児童の興味による自由選択教材を関連教材とした。

また、実践2の説明的文章「メディア・リテラシー入門」では、関連教材として5編の文章(表4)を指導者が選定し、その中から児童が選ぶ自由選択とした。いずれも、5年生の教科書教材として取り上げられている文章で、メディアを題材にし、構成や筆者の考えに共通点がある文章である。文章を読むことが苦手とアンケートで答えていた児童は「テレビとの付き合い方」を選んでいった。テレビという一番身近なメディアが題材であり、分かりやすい事例であることが興味を喚起したと考えられる。「言葉と事実」を選んだ児童については、「メディア」という言葉がなかったので、どんな関連があるのか興味があった」としており、「メディア」という言葉に関連性を見い出して関連教材に選ぶとの予想に反して、「どこが似ているのだろう」という興味を基に選ぶ児童が多かった。

表4 関連教材と児童による自由選択の状況

関連教材	選択した児童数
ゆるやかにつながるインターネット	8
テレビとの付き合い方	10
メディアとの付き合い方	4
言葉と事実	25
新聞記事を読み比べよう	0

実践1のような自由選択は、児童が自分のお気に入りを選び、興味を持続できる方法である。しかし、共通事項に気付かせたり、考えを練り上げさせたりすることをねらいとする学習においては、自由選択による文章では、同じ観点で考えさせることが困難になることがある。そこで、実践2のように、指導者がねらいの達成のための資料として適している文章を複数選択し、その中から児童が選択する方法は、児童の習得状況や興味にも合った方法であると考えられる。

並行読書は、学習活動の第2次「追究する」過程において、一単位時間内に10分程度の時間を確保して、各自で選んだ関連教材を読み取る学習活動として位置付けた。児童は、教科書教材において読み取りの手がかりにした読みの観点を基に関連教材を読み取れることが分かり、関連教材の読み取りを自力読みで進めることができた。

実践1では、第3次の言語活動のまとめとして教科書教材で確かめた読みの観点を活用してお気に入りの本を紹介する活動を行った。導入で提示した学習モデルを使って、既習事項や本単元で学習した事項を生かして記述する部分、伝えるために自分で工夫を加える部分などを全体で確認した。

そのことによって、前時までのまとめを参考にしながらおすすめの本の自力読みを進めることができ、全員が本の紹介シートに「おすすめポイント」として自分の考えをまとめることができた（図4）。

実践2では、「情報との付き合い方を考える」という言語活動のまとめで、自分の考えをまとめた。教科書教材と関連教材をどのように関連付けて自分の考えをもつことにつなげられているかについて、引用を用いて考えをまとめている児童の記述を示した（表5）。

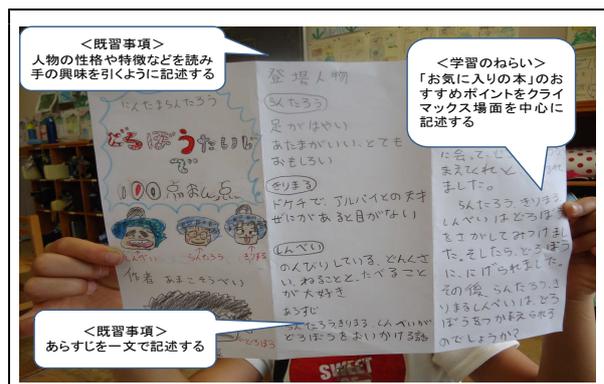


図4 児童のおすすめの本の紹介シート

表5 「メディア・リテラシー入門」での言語活動のまとめとしての児童の記述

記述例	二つの文章の内容の比較をしたり、どちらかの文章の中から自分の考えの根拠となる記述を引用したりして、自分の考えをもっている (おおむね満足できる状況)	28名
記述例	「これから、情報などを見るときは他のメディアの情報などを見て、本当にこのニュースなどがあっているのかなど、より考えを深めたほうが良いと思った。なので、ぼくもいろいろなメディアで情報などをみて考えを深めようと思いました。」 (「テレビとの付き合い方」を引用)	
記述例	二つの文章の内容の比較や自分の考えの根拠となる記述の引用をしながら自分の生活を振り返り、自分の考えをもっている (十分満足できる状況)	14名
記述例	「メディア・リテラシー入門」では、メディア・リテラシーの力を付ける事が必要と述べていた。そして、「言葉と事実」では、一つの事実を表すにも、それをどのように表すかに気を配る事が必要と述べている。なので、ぼくは、どのように事実を言葉で表しているか考えながら情報を選びたい。 (「言葉と事実」を引用)	

「読みを深めることへの活用」で自分の考えがもてるということは、文章の内容から分かったことをまとめるだけでなく、教材からの情報を活用することで、自分の生活と照らし合わせて考えることができたということである。

児童は、共通点や相違点をもった関連教材を読むことで、「どこが同じで、どこが違うのか」「自分の生活とどのようにかわるのか」といった観点で文章を比較・関連付けをすることができるようになった。「何を比べたら何が分かるのか」が明確になることで、自分の考えを言語化する根拠が得られ、自分の考えを深めることができたと考える。学習後に行ったアンケートでは、並行読書については、「他の文章と比べたことはとても分かりやすかった」「教科書以外の文章がある方が分かりやすかった」「他の資料などを使って考えを深くしたり、文章を比べて読んだりして分かりやすかった」という記述が見られた。

また、学習後のアンケート結果（図5）では、並行読書型の授業に対して、73%の児童が「おもしろい学習だった」と答えており、児童の興味や意欲が高い学習であったことが分かる。関連教材が「自分の考えをもつためのヒントとなった」と答える児童は58%であった。「教科書以外の文章と一緒に読んでいくと文章の内容を理解しやすくなる」ことを実感した児童も64%だった。分かりやすかった理由としては、教科書教材での学習で事例と根拠の関係や筆者の考えについて読み取った後、関連教材でも同じであることを確かめられたことが挙げられ、児童は、並行読書をすることで内容理解のヒントが得られたと考える。

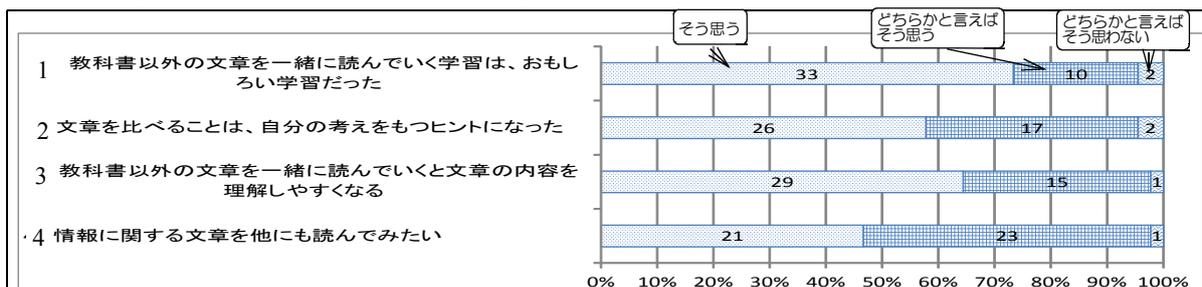


図5 「メディア・リテラシー入門」の事後アンケート結果

※欠席者2名

学習後の感想では、「並行読書を取り入れた学習が楽しかった」「読みの観点を意識すると内容がよく分かる」「比べて読むと同じところがあることが分かる」などの感想が多かった。教材を比べて読む学習活動が児童にとって有用感のある学習であったと考える。

(2) 並行読書型授業プラン「表現することへの活用」について

① 授業実践3 4年生「ごんぎつね」(文学的文章)

対象	研究協力校 小学校第4学年 20名	
実践期間	平成25年11月7日～11月20日 9時間	
単元名	感想交流会をしよう～自分の生活を振り返って～(「ごんぎつね」(学校図書 4年下))	
単元の目標	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。	
評価規準	国語への 関心・意欲・態度	叙述に着目して物語を読み、感じたことや考えたことを伝え合っている。
	読む能力	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読んでいる。 [ウ] 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりしている。 [エ]
	言語についての 知識・理解・技能	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。 [イ(ア)]

指導計画

過程時間	言語活動	主な学習活動
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>作者新美南吉を知り、作品に興味をもつ。</li> <li>教師による主教材の範読を聞き、初発の感想をもつ。</li> <li>学習課題 <b>感想交流会をしよう～自分の生活を振り返って～</b></li> </ul>
	2	<p><b>出会う</b> 「おもしろそう」「読んでみたい」と思わせる関連教材との出会いで興味をもつ</p> <p>読みの観点① 人物・時・場所      読みの観点② あらすじ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物語の設定をとらえる。</li> <li>自然描写に着目して、物語の舞台について理解する。</li> <li>場面ごとの出来事をとらえて、物語のあらすじを理解する。</li> </ul> <p>・関連教材「手ぶくろを買いに」を紹介し、読みに取り組みるようにする。</p>
第2次	3	<p>読みの観点③ 人物の性格</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場面1を読み、前時で読み取った物語の背景や主人公「ごん」の人物像について、叙述を基に確認していく。</li> <li>叙述を引用しながら、いたづらをする「ごん」の心情を想像する。</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面2、3を読み、叙述を引用しながら、いたづらを後悔する「ごん」の心情を読み取る。</li> <li>「ごん」の償いの意味を考える。</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面4、5を読み、「兵十」への「ごん」の思いを叙述から想像し、「ごん」の「兵十」への気持ちが変化していることを読み取る。</li> <li>「ごん」の償いの意味の変化を考える。</li> </ul>
	6	<p><b>比べる</b> 主教材の読みと関連教材の読みを繰り返すことで、教材の読みが深まる</p> <p><b>並行読書</b></p> <p>1単位時間を確保 登場人物の心情を読み取るためのモデル学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関連教材「手ぶくろを買いに」で、場面の様子や登場人物の言動などの叙述から、気持ちの変化がどのように表現されているのかを確かめる。</li> <li>母ぎつねの気持ちの変化に着目し、人物の心情について叙述を基に考えられるようにする。</li> </ul>
	7	<p>読みの観点④ 主題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場面6を読み、撃たれた「ごん」の様子やごんの行いを知った「兵十」の気持ちを想像して表現を味わう。</li> <li>前時でのそれぞれの心情の読み取りを基に、「ごん」の行動にある思いや「兵十」の驚きの大きさを実感をもって理解し作品の主題を考える。</li> <li>「ごんぎつね」の感想をまとめる。</li> </ul> <p>最後の「青いけむりがまだつつ口から細く出ていました」の一文に着目。</p> <p>最後の一文にはどんな意味があるでしょう。</p> 
第3次	8	<p><b>まとめる</b> 第2次で読み取ったことを基に、関連教材のまとめをして自分の考えをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで自分の考えを交流し、自分の考えをまとめる。</li> <li>作者が伝えたいことについて自分なりの考えをもつ。</li> <li>感想として自分の考えをまとめ、感想を交流し合うことで、学びを広げる。</li> <li>単元全体を振り返り、自分の学びをまとめることで、この単元で身に付けた力を意識できるようにしていく。</li> </ul>
	9	

## ② 結果と考察

実践3では、指導者選択による同一教材とし、同じ新美南吉の作品の「手ぶくろを買いに」を関連教材として選定した。「手ぶくろを買いに」は、「ごんぎつね」と同様に狐が主人公の物語であり、新美南吉の代表作の一つである。この作品は、他の教科書では3年生の教材に採用されており、はっきりした場面展開で人物の心情変化をとらえやすいため、並行読書の関連教材として適していると考えられる。

この実践では、登場人物の心情を深く読み取るというねらいの達成のために選定したもので、心情変化を読み取るために、作品の一部に着目させる方法を取り入れた。「手ぶくろを買いに」は、冬の情景描写の美しさやすばらしさ、子どもの狐の愛らしい行動描写など、読み取らせたいよさがたくさんある作品である。しかし、並行読書として扱う場合は、多くの作品としてのよさの中から、精選したよさを読み取りに生かすことが大切であると考えられる。作品を精選した観点で扱うことで、読みの技術の習得としての教材になる。

次に示すのは、学習後、関連教材「手ぶくろを買いに」についてアンケート調査（実施学年：4年生 20名）を行ったものである。

表6 関連教材「手ぶくろを買いに」についての意識調査

質問事項		そう思う	どちらかと言えそう思う	どちらかと言えそう思わない	そう思わない
1	「手ぶくろを買いに」を読むことは、むずかしかった	1	0	6	13
2	最後の「つぶやきました」の言葉について考えたこと	12	7	1	0
3	「ごんぎつね」同じ作者の書いた物語だということ	14	6	0	0
4	の読み取りに主人公がきつねがであること	18	2	0	0
5	役に立ったこと登場人物の気持ちの変化が似ていたこと	13	6	1	0
6	と自分の考えを書くときに、比べて考えられたこと	9	10	1	0
7	作者の他の物語に、興味をもてたこと	16	3	1	0
8	比べることで物語（人物の気持ち）が分かったこと	12	4	4	0

「手ぶくろを買いに」の読み取りを「難しいと思わない」児童は19名であった。これは、物語の展開がとらえやすく、登場人物が少ないという点で作品の設定やあらすじの読み取りが比較的短時間にできたためと考えられる。また、「作者が同じ」（20名）「主人公に共通項がある」（20名）「気持ちの変化に類似点」（19名）ということにおいても興味をもてる教材であったと考える。

並行読書の観点からは、「比べることで、登場人物の気持ちを理解できた」と答えている児童が16名おり、「手ぶくろを買いに」の並行読書が、本時のねらいであった「登場人物の心情を読み取る」ことに有効に活用できたと考えられる。

関連教材を学習した次時の「ごんぎつね」の最後の場面の読み取りで、「ごん、お前だったのか。いつもくりをくれたのは」という兵十の言葉についての児童の記述は以下のとおりであった。

	「手ぶくろ買いに」で学習した心情の読み取り方を基に、兵十の気持ちについて想像している (おおむね満足できる状況)	11名
記述例	えらいことをしてしまった。神さまとまちがえてしまって、わかった。 (自分の行動が間違っていたことを知り、ごんへの謝罪の気持ちをとらえている記述例)	
	「手ぶくろ買いに」で学習した心情の読み取り方を基に、ごんの行動に驚き、混乱している兵十の気持ちについて想像している (十分満足できる状況)	9名
記述例	ごん、お前がいつもくりを置いてったとは、しらなかった。くりやまつたけを、いつも、何でくれたんだ。 (ごんの行動に対する驚きがとらえられている記述例)	

「ごんぎつね」の最後の場面（クライマックス）について、児童は、兵十の気持ちについての記述に「初めて分かった」「どうして」という驚きを表す言葉を用いるなど、自分が「ぬすと（ぬすつと）ぎつね」と思っていた「ごん」への認識が大きく揺さぶられる場面であるということを読み取っていた。今までの授業での読み取りでは、児童の多くが、「撃ってしまって、ごめん」「くりをありがとう」というごんへの懺悔や感謝の言葉を兵十の気持ちとして思い描いてしまう傾向にあった。しかし、ここでの心情はあくまで、理解できない状況に陥った驚きである。この驚きを理解し、「ばたりと取り落とした」兵十の気持ちを丁寧に読み取ることができたことが分かる。この驚

きを理解し、「ばたりと取り落とした」兵十の気持ちを丁寧に追っていくことで、「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました」の場面に表される静けさや余韻を読み取っていた（図6）。

最後の「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました」に表現されているのは、兵十の揺れる気持ちがごんへの理解に変わっていく静かな時間であり、兵十の言葉に静かに頷くごんの気持ちと重なり合って、二人の気持ちが初めて寄り添う瞬間と考える。児童は、この瞬間を「兵十の気持ちがだんだん変わって行って、二人の気持ちと一緒に」と読み取った。「手ぶくろを買いに」の最後の「つぶやきました」の中に、心情や作者の伝えたいことが込められていることを学習したので、児童は、最後の一文に注目することができたと考える。心情をどのような表現から読み取るのかといった読みの技術を習得する学習をし、読み取ったことを基にして、全員の児童が自分の言葉で考えを記述することができた。

また、「感想を交流しよう」という言語活動のまとめとして児童が自分の考えをまとめた記述は、以下のとおりである。

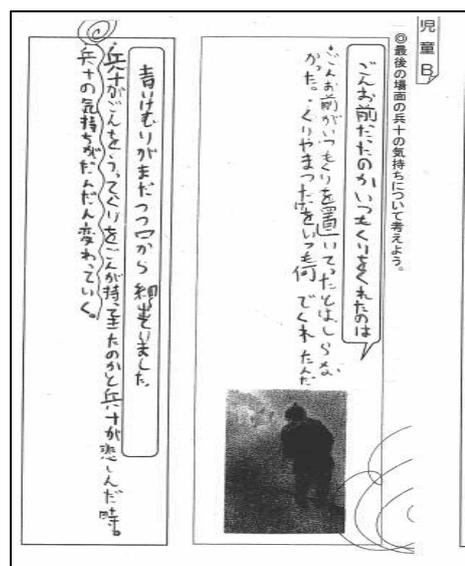


図6 児童のワークシート

児童A：「ごんぎつね」と「手ぶくろを買いに」は最後に主人公に大きく関係している人物の気持ちがゆれ動いて変わっていくのが分かって、ごんと兵十の気持ちがいっしょになったということが分かってよかった。「ごんぎつね」で勉強した事をほかの国語の物語の勉強に役立てたいです。

児童B：ごんみたくに、やさしくなれること。大変な思いがあっても、そこをのりこえれば、良いことが必ず起きるとのこと。自分を反省していくと、どんどん気持ちがかわっていき、ぼくたちになていると思った。

児童Aの記述は、「ごんぎつね」「手ぶくろを買いに」の二つの作品での人物の心情に注目することで、作品の主題について考えられていた。同時に、読み取ったことを振り返った時、「自分は〇〇が分かったから、次は～しよう」という読みの技術の習得についてのメタ認知が児童の中に生まれていることが分かる。また、児童Bの記述は、作品のテーマを自分に置き換えて理解している様子が分かる。つまり、自分の経験と照らし合わせて考えたことを実感としてまとめているということである。また、振り返りでは、「二つの作品での読み取りを生かして自分の考えをまとめることができた」や「友達の考えに共感したり、自分とは違う考えに感心したりした」という内容や、「この学習を他の国語の勉強でも生かしていきたい」という記述も見られた。

「表現することへの活用」で自分の考えがもてるということは、文章の内容から分かったことを感想としてまとめるだけでなく、教材からの情報を活用することで新しい発見をして、そこから自分の経験を振り返って考えることができたということである。

しかし、表6「自分の考えを書くときに比べて考えられたこと」「比べることで物語がよく分かったこと」について「どちらかと言えばそう思わない」と答えた児童4名については、まとめの感想で、作品のテーマを自分の経験と照らし合わせて記述することが難しい様子であった。それぞれの作品の学習では登場人物の気持ちについておおむね満足できる状況の読み取りをしていたが、二つの作品の読み取りをどのように関連付けたら良いのか戸惑っていたのは、関連教材のテーマをとらえることができなかったためと考えられる。ただし、意見交流の場で友達の感想を聞くことによって、作品のテーマと自分の経験をつなげるということについてイメージすることができていた。

さらに、「ごんぎつね」の授業実践の事前と事後で、児童の意識の変容を見るために、アンケート調査を行った（図7）。

「登場人物の気持ちを考えることができる」については、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」合わせて18名となった。初めのアンケートでは「どちらかと言えばそう思わない」だった5

名と「そう思わない」1名は、「一つ一つの人物の気持ちを考えるとやりやすいことに気付いた」と記述していた。

「自分の考えを書くことができる」については「そう思う」が10名で「苦手だったけどできるようになった」としていた。

「自分の考えを見直す」については、「感想交流会で友達の意見がよく分かった」とする児童が多く、友達の多様な考え方に目を向けることができ、感想を交流する活動に対して有用感をもったと考える。

また、学習後の児童の振り返りでは、「ごんぎつねは、最初

は、むずかしそうと思ったけど、感想交流会までやってみたら、自分の感想がもてて、楽しかった」というような「自分の考えがもてるようになった」という記述が見られた。児童が自分の考えをもてたことで、自信をもって伝え合うことができるようになったと考えられる。

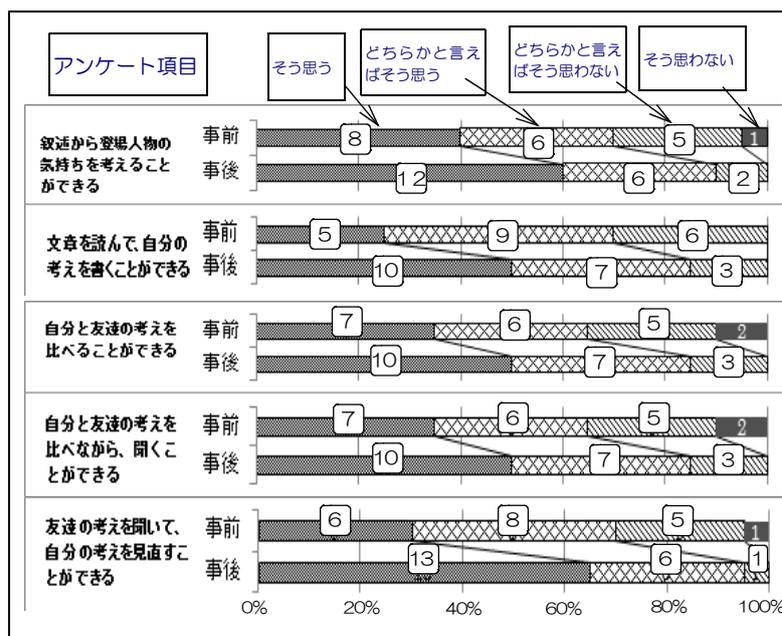


図7 事前・事後のアンケートから見える児童の変容

## IX 研究の成果と課題

### 1 成果

- 「読みを深めることへの活用」を図る並行読書の有効性について
  - ・ 文学的文章においては、自分の「お気に入りの本」を紹介するなどの活動を言語活動で設定し、物語を読み取るための観点を明確にしなが、1単位時間内に同じ観点で関連教材を読み取る自力読みの活動を取り入れた。このことにより、並行読書が読み取る技術を習得する学習として有効であることが分かった。児童は情報を活用して読みを深め、自分の考えをもつことができた。
  - ・ 説明的文章においては、情報を比較・関連付けをすることで、事例が示すことの意味をいろいろな角度から具体的に理解したり、筆者の考えの明確な根拠をとらえたりすることができた。また、情報の共通点や相違点を照らし合わせることで、必要な情報を取り出して吟味しながら、自分の考えをもつことができた。
- 「表現することへの活用」を図る並行読書の有効性について
  - ・ 表現効果に共通点がある文章を比較・関連付けをすることは、登場人物の心情をどのような表現から読み取るのかといった、心情をとらえるための読みの技術を習得する学習として有効であった。情報の活用が児童の実感を伴った理解を引き出し、自分の生活と照らし合わせて考えることにつながった。
  - ・ 共通点や相違点をもった複数の文章で「何を比べたら何が分かるのか」という読みの観点が明確になることで、自分の考えをもつ根拠としての「引用」や「比較」「関連付け」ができるようになった。

### 2 課題

- 教科書教材の単元計画に関連教材の読み取りを位置付けたことで、読み取りの時間が十分に保障できず理解を深められない児童がいた。二つの教材をどのように関連させて考えるのかという読み取りの観点を明確化と、ねらいの焦点化を図る単元の指導計画を工夫する必要がある。
- 他学年や他の領域において並行読書型授業プランが有効な単元を明確にしたり、ねらいに即した関連教材の選定を行ったりする必要がある。

## X 並行読書型授業プランの充実に向けて

自分の考えをもつことのできる児童の育成のためには、情報を活用する力の育成が必要である。そのことから、情報を活用する力を身に付けるためには、小学校国語科においても情報を活用する視点をもった学習を取り入れることが有効であるという仮説を基に研究を進めてきた。研究で明らかになった結果から「並行読書型授業プラン」を提唱する。

本研究における「並行読書型授業プラン」とは、児童が教科書教材の読みを深め、自分の考えをより深めていくために、教科書教材と関連教材を並行読書する学習である。そして、学習活動で重要と考えたのが、情報を「比較する」「関連付ける」という観点である。「比較する」「関連付ける」という観点で文章を読んでいくことが、児童の思考を「分析」「評価」「論述」へと進めることになる考える。

授業プランは、「読みを深めることへの活用」と「表現することへの活用」の二つの情報の活用方法で分類を試みた。そして、身に付けたい力に注目して選定した関連教材と、授業の中に関連教材をどのように位置付けるのかという単元構想を2本の柱に指導計画を組み立てた。今回の授業実践で取り上げた実践以外でも、児童が自分の考えをもつための手だてとして関連教材の選定や指導計画、指導形態などを工夫しながら多くの単元で実践ができると考える。

関連教材の選定については、より深く思考し、さらに、自信をもって自分の考えを発信する力を身に付けるためには、「比較する」「関連付ける」という観点に、「批評する」観点を加えることが必要であると考える。「批評する」ということは、自分の考えを発信するために、文章から読み取ったことを自分の経験と照らし合わせる過程での情報の精査が必要であり、より深い思考過程と考えるからである。

実践では、「読むこと」の領域で情報を活用する「並行読書型授業プラン」の有効性を検証してきたが、「情報を活用する力の実態調査」の結果から、「書くこと」の領域においても効果があるのではないかと仮説が立てられる。「書くこと」のねらいを達成するための関連教材として、新聞のコラムやエッセイ、また、非連続テキストなどを関連教材として活用することも考えられる。「並行読書型授業プラン」のさらなる実践や指導方法の提案により、国語科の指導法の改善を図っていくことを目指す。

### 1 並行読書型授業プランの提案

低・中・高学年での並行読書型授業プランを実施することが有効に働く単元を選び出し、「読むこと」と「書くこと」の領域における授業プランを作成する。児童の既習事項の活用を図るために身に付けたい力を明確にした単元一覧表を活用し、発達段階に応じた系統的な指導ができるようにする。

### 2 関連教材の提案

児童が自分の考えを深めていくことに効果的な「比較する」「関連付ける」「批評する」観点での関連教材を選定する。特に、「書くこと」の領域においては、新聞記事やコラム、エッセイなどの文章や図や表、パンフレットといった非連続テキストも活用していく。

#### <参考文献>

- ・石丸 憲一 『文学的文章の読みの授業における複数教材化の有効性の検証』創価大学教育学論集 第60号 (2013)
- ・川上 弘宜 著 『比べ読み・重ね読みで一人読み』明治図書 (2009)
- ・飛田 隆 『戦後国語教育と課題』日本私学教育研究所 紀要 第19号 (1983)
- ・水戸部 修治『初等教育資料』4月号 (2013)
- ・山下 敦子 『小学校国語科における多様な読書活動を取り入れた読解指導・読書指導に関する研究 ―比べ読み、多読を取り入れた活動を中心に―』大阪教育センター (2008)

#### <研究協力校>

みなかみ町立新治小学校

#### <担当指導主事>

右井 義人 委文 弥生

国語科学習指導案（4年）

- 1 単元名 「お気に入りの主人公が出てくる物語を紹介しよう」  
 ~登場人物の気持ちの変化をとらえ、物語のおもしろさについて自分の考えをもつ~  
 教材名 ○「ポレポレ」西村まり子（学校図書 4年上） ○児童の選定による図書教材

2 考察

(1) 教材観

<①学習内容：学習指導要領上の位置付け>

- ・「C読むこと」：ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」  
 オ「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」：イ(ア)「言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと」

<②伸ばしたい資質・能力>

- ・登場人物の気持ちの変化を叙述を基に読む力
- ・文章から必要な情報を取り出す力
- ・自分の考えを発表し、互いの感じ方の違いに気付く力

<③単元を貫く言語活動>

- ・語活動：「お気に入りの主人公が出てくる物語を紹介する」
- ・本単元での教材「ポレポレ」は、転校生と級友とのかかわりを小学校4年生の「ぼく」の視点で語られる物語文である。登場人物たちが学習者と同じ学年であり、場面設定も身近であることから、人物の心情に共感をしていける教材であると言える。そこで、登場人物の心情を読み取る技術の習得のために教科書での学習を単位時間内に他の文章に当てはめて読み取れるように、お気に入りの主人公が出てくる物語を各自で選び、その内容を「おすすめポイント」として友達に紹介する活動を言語活動として取り入れる。

<④教材文の特徴>

- ・本教材は、「読書を楽しもう」の単元として位置付けられ、読書の楽しみ方を知り、読書生活を広げることを目的とした教材である。本教材は、作品構成が反復型の展開で分かりやすく、主な登場人物は小学校4年生で、学習者と同じである。また、アフリカからの不思議な転校生との交流を軸に、クラスの女の子同士のトラブルから発生する事件や転校生とのかかわることで変わっていく登場人物の心情変化が描かれているなど、作品の設定が身近である。これらのことから、本教材は、4年生の児童が作品世界をイメージしやすい物語であると言える。
- ・並行読書をする関連教材は、学習のねらいに即した物語を児童が「お気に入りの本」として自由に選択する。関連教材の読み取りに教科書教材での学習を生かし、主人公の性格や気持ちの変化をとらえるという観点で理解を深めることができる。また、友達に紹介するという言語活動を設定することにより、相手意識をもった紹介シートの作成がまとめの活動ができるようになる。

<⑤必要な指導・活動>

- ・本単元では、物語を読み取るための読みの技術を身に付けることで、それらを他の文章の読み取りに生かすことができるようにするために並行読書型授業プランを設定する。
- ・関連教材の例示として、教師が選定した図書も紹介できるようにしておく。

選定図書例	○ともだちや シリーズ ○おまえうまそうだな シリーズ ○にゃーご ○じごくのそうべえ	○ふたりはともだち シリーズ ○だれも知らない小さな国 ○それいけズッコケ三人組 ○だいじょうぶ だいじょうぶ など
-------	--	---

<⑥今後の学習の活用>

- ・同じ作者、同じテーマなどに着目しながら、自分の読書生活を広げていけるようにする。

(2) 児童の実態及び指導方針

～「児童の実態」は省略～

- ・自分のお気に入りの本を選択できるように、導入部で読書マップを作成する活動を取り入れる。児童にたくさんの本に目を向けさせ、「お気に入りの本」を見付けさせる活動である。本に偏りが出てしまうことが考えられるので、教師が選定しておいた本（前述）を用意する。
- ・読書マップは教室掲示しておき、読書活動を広げるきっかけとして活用する。

3 研究とのかかわり

今日、子どもたちは、様々なメディアからの多種多様な情報に囲まれながら、知識基盤社会化やグローバル化が急速に進む社会に生きている。このような社会においては、たくさんの情報の中から自分に必要な情報を取捨選択し、そこから得たことを基に自分の考えを発信できるような情報を活用する力の育成が必要である。

そこで、本研究では、この課題に向き合うためには、教材や資料などの情報を取り出して組み合わせたり比べたりする学習活動を設定する必要があると考え、「並行読書型授業プラン」を設定する。

本単元では、教科書教材で習得した読みの技術を関連教材での読み取りに生かすため、1単位時間内に並行して学習する方法を設定する。読みを深めて、自分の考えをもつことができるようにするために、教材から取り出した情報を活用することができるようにしていく。

4 単元の目標

登場人物の行動や会話から性格や気持ちの変化を読み取り、自分が気に入った主人公の出ってくる物語について紹介することができる。

5 指導計画（全7時間予定）

時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動	関	読	言
		活用させたい知識等	思考力・表現力等				
第1時	課題把握		・目的に応じて図書を選ぶ力	・関連教材を選ぶ	○		
第2時 ～ 第5時	課題追究	・語句の意味を理解する力 ・物語の設定を理解する力 ・心情を表す表現をとらえる力	・文章の内容をおおまかにつかむ力 ・登場人物の性格をとらえる力 ・文章から必要な情報を取り出す力 ・叙述から登場人物の心情をとらえる力	・主教材文を読み、感想をもつ。 ・物語のあらすじをつかむ ・作品設定を理解する。 ・登場人物の性格や心情が分かる叙述を抜き出し、人物の心情を想像する。 ・情景描写や細かな人物の様子を伝える人記の叙述に着目し、人物の心情変化をつかむ。		○	○
第6時 ～ 第7時	まとめ	・関連教材で教科書教材で学習した読み取り方を生かす力	・必要な情報を関連付けて考える力 ・自分の考えをまとめる力	・関連教材の読み取りを基に、紹介シートにまとめる。 ・紹介シートを発表し、感想をまとめる。	○		

6 指導と評価の計画（全7時間予定）

過程時間	言語活動	主な学習活動	関連教材での学習活動
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで読んできた本の中で、自分が気に入った物語を読書マップで紹介し合う。</li> <li>・学習課題 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">おもしろい話見つけた！お気に入りの主人公が出てくる物語を紹介しよう</span></li> <li>・教師が作成した紹介シートで、学習の見通しをもつ。</li> </ul>	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>各自で読んでみたい本を関連教材として選び、並行読書する。</li> <li>【関】読書マップを参考に、進んで関連教材を選ぼうとしている。</li> </ul>
第2次	2	<p><b>出会う</b> → 「おもしろそう」「読んでみたい」と思わせる関連教材との出会いで興味をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主教材「ポレポレ」を読む。(範読)</li> <li>本文を読み、初発の感想を書く。(「読みの観点」に生かす)</li> <li>【読】作品の大体の内容を把握し、自分の言葉で、初発の感想を書いている。</li> </ul> <p>→ 読みの観点① 登場人物、時代、場所</p>
	3	<p><b>比べる</b> → 主教材の読みを副教材の読みで繰り返すことで、教材の読みが深まる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物語の作品設定を確認する。</li> <li>物語のあらすじをとらえる。</li> <li>登場人物の行動を手がかりに小見出しを付ける。</li> <li>【読】物語のあらすじをとらえ、人物の行動を手がかりに各場面に小見出しを付けている。</li> </ul>
	4	<p>→ 読みの観点② 登場人物の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの登場人物の性格を読み取る。</li> <li>主人公の紹介を書く。</li> <li>【読】登場人物の行動や会話から、それぞれの性格を読み取っている。</li> </ul>
	5	<p>→ 読みの観点③ クライマックスと人物の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物語の展開部から登場人物の気持ちの変化と主人公の役割について考える。</li> <li>物語の感想を書いて、発表し合う。</li> <li>【読】クライマックス場面と登場人物の気持ちの変化について読み取っている。</li> </ul>
	6	<p><b>まとめる</b> → 第2次で読み取ったことを基に、関連教材のまとめをして自分の考えをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2次での読み取りを基に、自分が気に入った物語の紹介シート作る。</li> <li>観点①～③を基に、関連教材について読み取った内容とおすすめポイントをまとめる。</li> <li>【読】自分の「お気に入り」の本の紹介文に、第2次の読み取りを生かしている。</li> </ul>
第3次	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>紹介シートで気に入った物語を友達に紹介する。</li> <li>友達の紹介シートを基にした発表に対して「感想カード」を書いて交流する。</li> <li>【読】友達の感想や紹介を読んで、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。</li> </ul>

自分の選んだ本の紹介をする

単位時間内の並行読書

**10分程度の時間を確保**

- 関連教材について読みの観点①を読み取る。
- 関連教材について読みの観点②を読み取る
- 人物の行動から物語のクライマックスをとらえる

## 7 展開計画 (全7時間)

< 1 / 7 >

- (1) **ねらい** 自分の読書体験を振り返ったり、友達からのたくさんの推薦本を知ったりすることで、読書活動への興味をもつ。
- (2) **準備** 教師が選んだ本 模造紙 学習課題 (掲示用) 教師作成の紹介シート
- (3) **展開**

過程	学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点および支援・評価
つかむ	1. 教科書 P94～95 「読書案内」をきっかけに、自分の読んだ本について思い出す。	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今までの自分の読書生活について振り返ることを知らせる。</li> <li>○読書傾向を把握していく。</li> </ul>
追究する	<p><b>出会う</b> →</p> <p>2. 読書マップを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで読んできた本の中で、おもしろいと思ったり、自分の気に入った主人公が出てきたりする物語を発表する。</li> </ul> <p>3. 教師によるブックトークを聞き、読書活動への見通しをもつ。</p> <p>4. 単元の学習課題と学習計画を確認して、学習への見通しをもつ。</p>	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の発言を基に、動物、男の子、女の子などの主人公別に分けて読書マップを作り、読書への興味を喚起する。</li> <li>○必要に応じて教師が用意した本を追加する。</li> <li>○選んでおいた本を使って教師がブックトークを行うことで、今まで興味のなかったと思われる傾向の本を知るきっかけを作る。</li> <li>○第3次での言語活動のまとめとして教師が作ったシートを学習モデルとして示す。</li> </ul>
	<p><b>学習課題</b> おもしろい話みつけた！お気に入りの主人公が出てくる物語を紹介しよう</p>		
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・並行読書教材としてどの関連教材を選ぶのか考える。</li> <li>6. 関連教材を選んで、教科書教材と一緒に読んでいく学習について知る。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次時までに自分のお気に入りの本を選んでおくことや選択に迷ったら教師が相談に乗ることを伝える。</li> </ul>

<2 / 7>

- (1) ねらい 教科書教材を読み、おおまかな作品の構造や設定をとらえ、教科書教材・関連教材について初発の感想をもつ。  
 (2) 準備 ワークシート 世界地図 地図帳 関連教材（各自）  
 (3) 展開

過程	学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点および支援・評価
つかむ	1. 各自が選んだ関連教材を確認し、並行読書の学習について見通しをもつ。	5	○各自が選んだ関連教材について紹介し合う。3名程度の児童に、選んだ本と選んだ理由について発表させる。
	2. 主教材「ポレポレ」の範読を聞く。 ・難語句について確認する。		○「ポレポレ」を範読する。 ○児童の内容理解のために、いくつかの難語句については説明したり、全体で確認したりする。
追究する	3. 作品構造（三部構成）と作品設定（登場人物・場）について、確認する。	30	○作品構造（三部構成）と作品設定（登場人物・場）について、地図やポイントカードなどを使って確認する。
	4. 主教材の初発の感想を書いて発表する。		○主教材の初発の感想を書いて発表させ、作品についての児童の読みの着目点を確認する 【読】作品の大体の内容を把握し、自分の言葉で初発の感想を書いている。
まとめ	<b>比べる</b>	5	○読み取り学習の最後に、関連教材を扱う時間を設定することを知らせる。
	5. 関連教材の初発の感想を書く。		
	6. 本時の振り返りをし、次時の学習について知る。	5	○次時までに進めておく調べ学習等、家庭学習の方法について確認する。 ○次時の学習の予告をする。

<3 / 7>

- (1) ねらい 主教材のあらすじをとらえ、登場人物の行動を手がかりに各場面ごとの内容を読み取り、関連教材の作品設定についてもとらえる。  
 (2) 準備 ワークシート 関連教材（各自）  
 (3) 展開

過程	学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点および支援・評価
つかむ	1. 前時の学習を振り返り、初発の感想から、友達の読みの着眼点について知る。	5	○初発の感想をまとめておき、友達のそれぞれの読みに対する着眼点の相違点や類似点に気付けるようにする。
	2. 物語の作品設定を読み取る。 <b>読みの観点①</b> <b>登場人物・場所・時</b>		○登場人物として、「ピーター」、「友樹」、「いずみ」、「クラスの3人の女の子」についておさえる。 ○「友樹」の視点で物語が語られていることをおさえる。
追究する	3. 物語を「導入」「展開」「終末」の三つの部分に分けて物語のあらすじをとらえる。さらに、登場人物の行動を手がかりに、五つの場面に小見出しをつけて内容を読み取る。	25	○冒頭に物語の結末が語られる反復型の作品構造であることを確かめておく。 ○五つの場面に小見出しを付けることで、登場人物の行動をとらえられるようにする。 【読】物語のあらすじをとらえ、人物の行動を手がかりに各場面に小見出しを付けている。
	<b>比べる</b>	10	○自分の選んだ本について、できる範囲で同じ観点で読み取れるようにする。
まとめ	5. 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	5	○次時の学習の予告をする。

<4 / 7>

- (1) ねらい 主教材の登場人物の性格を記述から読み取り、それを生かして関連教材の主人公の性格についてとらえる。  
 (2) 準備 ワークシート 関連教材（各自） 付箋紙  
 (3) 展開

過程	学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点および支援・評価
つかむ	1. 前時の学習を振り返り、主教材のあらすじや場面の小見出しを確認し、内容を想起する。	5	○主教材のあらすじ等を確認し、本時の学習を生かせるようにする。
追究する	<p style="text-align: center;"><b>読みの観点②</b> <b>登場人物の性格</b></p> 1. 登場人物の行動や会話文から、それぞれの性格を読み取る。 ・ピーター (P80、83、84、88、91) ・友樹 (P78、81、84、87、88、90) ・いずみ (P87、90、91) ・クラスの3人の女の子 (P87、90) ○ペア交流で確認して、サイドラインを引く。 ○全体交流で確認する。  3. 主人公「ピーター」の紹介を書く。	2 5	○「ピーター」、「友樹」、「いずみ」、「クラスの3人の女の子」について、それぞれの性格がよく分かる行動の記述や会話文を見付けるようにしていくが、付箋を貼らせることで、厳密に指摘させるのではなく、おおまかにとらえられるようにする。 ○主人公であるピーターを中心に読み取らせていくようにし、友樹といずみについては気付いたことを記入させるようにしておく。 ○ペアになり、お互いに付箋を貼った記述について見合うことで確認し、相談してサイドラインを引く。 ○全体で確認し、それぞれの性格をまとめるようにさせる。 ○読み取ったことを基に、主人公ピーターについての紹介文を書くようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">【読】登場人物の行動や会話から、それぞれの性格を読み取っている。</div>
	<p style="text-align: center;"><b>比べる</b></p> 4. 関連教材の主人公について読み取る。 5. 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	1 0	○関連教材の主人公の性格をどのように表現できるのか考えさせ、言葉で表すようにさせる。根拠となる記述も指摘できるようにする。
まとめ		5	○次時の学習の予告をする。

< 5 / 7 >

- (1) **ねらい** 主教材のクライマックス場面での登場人物の気持ちの変化と、それにかかわる主人公の役割について考え、関連教材のクライマックス場面を考える。
- (2) **準備** ワークシート 関連教材 (各自)
- (3) **展開**

過程	学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点および支援・評価
つかむ	1. 前時の学習を振り返り、登場人物の性格やピーターについて書いた紹介文を振り返る。	5	○前時の学習内容を思い起こさせ、ピーターの紹介文を数名の児童に発表させる。
追究する	<p style="text-align: center;"><b>読みの観点③</b> <b>クライマックスと人物の変化</b></p> 2. 4、5場面の登場人物の行動から「友樹」「いずみ」の気持ちの変化とそれにかかわる「ピーター」の役割について考える。 ・最初と最後では、友樹といずみがどのように変わったのか考える。 ○ペア交流で考えを交流する。 ○全体交流で確認する。  3. 物語の感想を書いて、グループで発表し合う。	2 5	○4、5場面を読み、友樹といずみの会話や行動からそれぞれの気持ちの変化をとらえさせ、根拠となる記述をおさえる。 ○友樹については、2の場面での行動をもとにした理解も参考にできるようにする。 ○気持ちの変化にピーターがどのようにかかわっているのか、考えられるようにする。 ○記述を根拠として、自分の考えを書かせるようにする。 ○ペアになり、お互いの考えを交流できるようにする。 ○自分の考えを必要に応じて修正するように伝える。  ○意図的に指名し、全体で意見が練り合えるように発表を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">【読】クライマックス場面と登場人物の気持ちの変化について読み取っている。</div>
	<p style="text-align: center;"><b>比べる</b></p> 4. 関連教材のクライマックス場面について考える。 5. 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	1 0	○関連教材のクライマックス場面はどこか考えさせるが、第3次でまとめることができるので、読みの観点の意識付けを中心に行う。
まとめ		5	○次時の学習の予告をする。

<6 / 7>

- (1) ねらい 第2次での読み取りを基にして、自分が選んだ関連教材の紹介文をつくる。  
 (2) 準備 ワークシート 紹介シート 関連教材 (各自)  
 (3) 展開

過程	学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点および支援・評価
つかむ	1. 前時までの学習を振り返り、本時の学習を確認する。	5	○前時の学習内容を思い起こさせ、今までの学習を基に、関連教材についてまとめるための見通しをもてるようにする。
追究する	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;"> <b>まとめる</b> </div> 3. 「お気に入り」の本の紹介文を書き、紹介シートにまとめる。 ・第2次で、「読みの観点」に基づいて読み取ってきたことを使って、関連教材の内容をまとめる。 ・友達に本の紹介をする「おすすめポイント」を意識した紹介文を書く。	3 5	○第2次での読み取りを基に、自分の「お気に入り」の本のおもしろさはどこにあるのか考えさせる。 ○読み取りを基に、自分のお気に入りのポイントを決め、友達に伝えるために、どのように書いたら良いのか考えることで相手意識をもてるようにする。 ○P94～95「読書案内」の本の紹介文にも着目するように伝えヒントにできるようにする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <b>【読】</b> 自分の「お気に入り」の本の紹介文に、第2次の読み取りを生かしている。                 </div>
まとめ	5. 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	5	○次時の学習「おすすめの本の発表会」をすることを伝える。

< 紹介シート > (A4版の用紙を三等分して使用)

本の題名 作者・挿絵 など   氏名	観点①、③から   観点②から	<おすすめポイント>
--------------------------------	--------------------------	------------

<7 / 7>

- (1) ねらい 自分の「お気に入り」の本の紹介文を発表し合い、それぞれの感じ方に違いがあることに気付く。  
 (2) 準備 ワークシート 紹介シート 関連教材 (各自)  
 (3) 展開

過程	学 習 活 動	時間 (分)	指導上の留意点および支援・評価
つかむ	1. 本の紹介の方法を知る。	5	○グループで紹介し合うこと、感想カードを書いて渡すことを伝える。
追究する	2. グループで「お気に入り」の本を紹介し合う。 ・グループの友達に感想カードを渡す。  3. 友達の本の紹介を聞いて、友達の取組について感じたことを発表する。 ・感想カードに感想を記入する。	2 5	○5人グループで順番や発表時間などを確認させる。 ○発表者に感想を書くときには、発表者の意図に沿った評価をしてあげられるようにさせたい。そこで、以下の観点の中から、聞き手が、特に感じたことを選んで伝えるようする。 ①あらすじの書き方。 ②主人公の性格の伝え方。 ③「おすすめポイント」の魅力度。 ④全体的な分かりやすさ。 ⑤「こうしたほうが伝わる」という改善点の提案。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <b>【読】</b> 友達の感想や紹介を読んで、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。                 </div>
まとめ	5. 単元全体を振り返り、学習して考えたことをまとめる。	1 0	○「ポレポレ」や自分の選んだ本についての感想や並行読書で分かったこと、学習の形態などで学んだことなどを記述できるようにする。

## 国語科学習指導案（6年）

### 1 単元名 情報との付き合い方を考えよう

～事例を整理して要旨をとらえ、自分の考えをもつ～

教材名「メディア・リテラシー入門」ほか

### 2 考察

#### (1) 教材観

<①学習内容：学習指導要領上の位置付け>

・「**「読むこと」**」：ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読みだりすること」

カ「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」

・「**「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」**」：イ(キ)「文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること」

<②伸ばしたい資質・能力>

- ・事例と意見を読み分ける力
- ・事例と意見の関係をとらえる力
- ・文章を基に自分の考えをまとめる力

<③単元を貫く言語活動>

・言語活動例：イ「自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること」

・単元を貫く言語活動：「情報を活用する方法を考え、友だちと意見を交流する」

本単元は、メディアの特徴を理解し、情報を正しく判断することについて自分の考えをもたせていくことをねらいとしている。そこで、複数の文章から筆者の主張の根拠や理由を探することで自信をもって自分の考えを言語化することができ、さらに、友達と意見交流をすることで自分の考えを広げたり深めたりすることができる言語活動を設定する。

<④教材文の特徴>

・教科書教材「メディア・リテラシー入門」は、文章構成が序論、本論、結論の構成で、本論において、各メディアによるニュースの特徴を事例をもとに説明している三段構成の分かりやすい説明的文章教材である。児童は、5年生の「新聞の読み方を考える」において新聞記事が作り手の意図が表れた情報であることを学習している。本教材では、さまざまなメディアの特徴について知り、情報と自分とのかかわりという視点で考えることのできる内容になっている。そのため、情報について学習した内容を生活の中に転移させていくことのできる教材であると考えている。

・関連教材とする説明的文章は、いずれも5年生の教科書教材である。そのため、6年生にとっては内容理解が比較的容易である。また、インターネット、テレビのニュース、言葉による伝わり方の違いといったメディアを題材にした要点がつかみやすい文章で、どの筆者も情報を選ぶことの大切さについて考えるように読者に投げかけている。つまり、文章の要旨に共通点があることにより、教科書教材での筆者のメッセージを受け止めた児童が、自分なりに考えをまとめる時の根拠や理由といった材料にすることができる内容である。

<⑤必要な指導・活動>

・本論での事例を手がかりに、各メディアのニュースの特徴についてサイドラインを引いたり、表にしたりして、それぞれ作り手の意図の違いを分かりやすくまとめることができるようにする。

・教科書教材の要旨をとらえ、各メディアの特徴を実感をもって理解できるように、関連教材で並行読書による比べ読みをする。

<⑥今後の学習の活用>

- ・「レポートをまとめよう」での集めた資料を活用し、目的に応じて取捨選択しながら自分の考えをレポートとして文章にまとめていく学習。
- ・相手意識や目的意識を明確にし、事実と意見を区別して書く学習。

## (2) 児童の実態及び指導方針

＜これまでの既習の内容＞

- ・5年生の説明文教材「新聞の読み方を考える」で事実と意見の関係を読み取る学習において新聞の読み比べを通して、新聞記事には作り手の意図が表れていることを理解している。

＜本単元にかかわる実態及び指導方針＞

～「児童の実態」は省略～

本単元では、並行読書を取り入れた授業プランでの指導方針を以下のように考える。

- ・本単元で身に付けたい力や伸ばしたい資質・能力を焦点化するために、説明的文章の読みの観点を設定し、既習事項を整理しながら読み取りを進める。
- ・教科書教材の読みを深め、児童が自分の考えをもてるようにするために、メディアを題材として扱った他の教科書の5年生の説明文教材を関連教材とする。児童は選定させた関連教材の中から自由選択し、読み取りの場面では、選んだ文章毎のグループ編成を基本として交流する。
- ・第2次では、新聞だけでなく、テレビや他のメディアからの情報も発信者である作り手の意図が表れていることが理解できるようにするために、三つのニュース番組を比較させる活動を設定する。資料映像は総務省の動画教材を活用する。

( 関連 URL：総務省 教育者向け情報

[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/top/hoso/kyoiku.html](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/hoso/kyoiku.html) )

- ・第3次では、第2次での読み取りを活かして言語活動としてまとめられるように、グループ交流で自分の考えを深められる交流の視点をおさえて、交流での基本を確認していくようにする。

## 3 研究とのかかわり

本単元では、文章の要旨をとらえながら、情報を正しく理解して判断していくメディア・リテラシーの力を付けるとはどういうことなのかということについて、自分の考えをもたせていきたい。さらには、本単元で得た知識や自分の考えを実生活や他の教科の学習へと活かすことができる、学習の活用へと広げていきたいと考える。このようなメディア・リテラシーの力の必要性を児童がより実感をもって理解をしていくために、メディアとの付き合い方を考えるヒントとなるような情報に出会わせる必要がある。つまり、目的に応じて、複数の文章を選んで比べて読む学習を通して、それらを活用する力の育成も図ると言うことである。そのために、メディアを題材として扱った他の説明文教材を関連教材として並行提示型の並行読書型授業プランを設定し、児童が自分の考えをもてるようにしていきたいと考える。

## 4 単元の目標

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえてとらえた要旨や事実と意見の関係などの読み取ったことを基に、自分の考えをもつことができる。

## 5 指導計画（全8時間予定）

評 価 規 準	国語への 関心・意欲・態度	新聞、ラジオ、テレビなど、メディアにはたくさんの種類があることを知り、それぞれに伝える側の意図に違いがあることを理解して情報と付き合っていこうとしている。					
	読む能力	それぞれのメディアの特性やその活用の仕方を内容から読み取り、生活の中でメディアと上手に付き合っていくことについての自分の考えをもっている。 比べて読んだ文章を基に考えたことを発表し合い、自分の考えを深めている。					
	言語についての 知識・理解・技能	文や文章には、伝え方によって、いろいろな構成があることについて理解している。					
時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動	関	読	言
		活用させたい知識等	思考力・表現力等				
第1時	課題	・語句の意味の理解	・文章の内容を大まか	・主教材文を読み、感想を	○		

第2時 ～ 第5時	把握 課題 追究	<ul style="list-style-type: none"> <li>接続語、指示語の知識 (例えば、では、ところで、それでも、こうして、これ、この など)</li> <li>説明文における問いと答えの呼応についての知識</li> <li>文章構成の知識 (序論・本論・結論)</li> <li>文末表現に関する知識 (問い：～でしょうか) (意見：～のです)</li> </ul>	につかむ力	もつ。				○	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の構成をつかむ力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明内容のまとまりを考え、文章構成をとらえる。</li> </ul>					○
			<ul style="list-style-type: none"> <li>事例と意見を読み分ける力</li> <li>事例と筆者の考えの関係をとらえる力</li> <li>必要な情報を関連付けて考える力</li> <li>文章を基に自分の考えをまとめる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問いと答え、事例を構成表にまとめる。</li> <li>事例をまとめた構成表を基に、事例の役割について考える。</li> <li>今までの学習を基に、筆者の考えに対して自分の考えをもち、発表する。</li> </ul>				○	
第6時 ～ 第7時	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連教材に教科書教材で学習した内容を転移させること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を関連付けて考える力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連教材の要旨をとらえ教科書教材での要旨と比べて、自分の考えを深め、意見を交流する。</li> </ul>				○	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをまとめる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元全体を振り返り、観点に沿って学んだことをまとめる。</li> </ul>				○	

### 関連教材一覧

教材名	筆者	掲載教科書
自分の考えを明確にしながら読もう 「ゆるやかにつながるインターネット」	池田 謙一	光村図書 5年 銀河
メディアとわたしたちのかかわりについて考えよう 「テレビとの付き合い方」	佐藤 二雄	東京書籍 5年下 新しい国語
読書の森で 「メディアとの付き合い方」	堀田 龍也	三省堂 5年 学びを広げる
情報を深める 「言葉と事実」	福沢 周亮	教育出版 5年上 ひろがる言葉
書き手の意図を考えながら新聞を読もう 「新聞記事を読み比べよう」		東京書籍 5年上 新しい国語

### 6 指導と評価の計画 (全7時間予定)

時間過程	言語活動	主な学習活動 及び 評価	…関連教材の学習活動
第1時 課題把握	意見文にする さまざまなメディアからの情報との付き合い方を考え、	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師による主教材の範読を聞く。</li> <li>主教材文について感想をもつ。</li> <li>学習課題や学習計画を知り、学習の見通しをもつ。</li> </ul>	
		<p>学習課題 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">さまざまなメディアからの情報との付き合い方を考えよう。</span></p> <p>【関】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新聞、ラジオ、テレビなど、メディアにはたくさんの種類があることや、それぞれに特性があることを知り、学習への見通しをもつことができる。</span></p>	
第2時 ～ 第5時 課題追究		<p>出会う <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見通し① 「おもしろそう」「読んでみたい」と思わせる関連教材との出会いで興味をもつ</span></p> <p style="text-align: center;">読みの観点① 題名、構成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>題名を手がかりに、説明文のおおまかな内容をとらえる。</li> <li>序論、本論、結論の三段構成の文章構成をとらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題を解決するための関連教材があることを知り、関連教材を選ぶ。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料集</span></li> </ul>
		<p>【言】 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">説明している内容のまとまりをおおまかにとらえ、三段構成の文章構成であることを理解することができる。</span></p> <p>比べる <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見通し② 主教材の読みを関連教材の読みで繰り返すことで、教材の読みが深まる</span></p> <p style="text-align: center;">読みの観点② 問いと答え、小見出し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問いと答えの文をおさえる。</li> <li>事例を構成表にまとめ、全体の構成をとらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で選んだ関連教材の問いと答えの文を手がかりに、文章構成を</li> </ul>

さまざまなメディアからの情報このつき合い方を考え、意見文にする

- ・意味段落ごとに要点をおさえて、小見出しを付ける。

確かめる。 グループ交流

**【読】** 文章全体の構成をとらえて、小見出しを付けることができる。

読みの観点③

事例

- ・事例を基に、それぞれのメディアの特徴と事例の示す意味について読み取る。
- ・関連教材と比べたことを発表する。

- ・自分で選んだ関連教材で、筆者の考えとその根拠なる事例を確認する。

**【読】** それぞれの事例から内容を読み取り、事例の役割を考えながら要旨をとらえることができる。

- ・ニュース番組や新聞記事、インターネットのニュースを比較し、第一次情報が同じでも伝わり方が違うことを確認する。
- ・読み取ってきたことを基に、筆者のメッセージを受けての自分の考えをもつ。
- ・グループで意見交流する。

- ・教科書教材の内容と自分で選んだ関連教材の内容には、共通点があることを確認する。

グループ交流

**【読】** ニュースの比較を通して、読み取ってきたことを確かめ、筆者の考えについて自分の考えをもつことができる。

まとめる

見通し③ 第2次で読み取ったことをもとに、関連教材のまとめをして自分の考えをまとめる

- ・第2次での読み取りを基に、関連教材の要旨をとらえ、筆者のメッセージをまとめる。
- ・教科書教材と関連教材の要旨と筆者のメッセージを比べて、グループで意見交流をする。
- ・学習課題「情報を生活に生かす方法を考えよう」について、自分の考えをまとめる。

**【読】** メディアを活用していくことについての自分の考えをもち、比べて読んだ文章の要旨から考えたことを発表し合い、自分の考えを深めることができる。

- ・同じ関連教材を選んだグループで意見交流をして、自分の考えに加筆したり、修正したりしながら、考えを整理していく。
- ・自分の考えを発表し合い、学びを広げる。
- ・単元全体を振り返り、自分の学びをまとめることで、学習の転移を意識できるようにしていく。

**【関】** 学習を振り返り、情報を自分の生活に活用していく方法について考え、実践していこうとしている。

## 7 本時の展開 (全7時間)

< 1 / 7 >

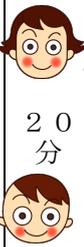
- (1) **ねらい** 筆者の提起している問題を手がかりに、初発の感想をかく。
- (2) **準備** ワークシート
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p>&lt; 本時の課題を把握する &gt;</p> <p>1 題名と序論を読み、今までの自分と情報とのかかわりについて考える。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題名「メディア・リテラシー入門」から、情報と付き合っていくことについて問題提起されていることを知り、興味を喚起する。</li> </ul>
<p>&lt; 課題を追究する &gt;</p> <p>2 教師の範読を聞きながら、教材文のおおまかな内容をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字や難語句について確認し、次時まで調べておくことをおさえる。</li> </ul> <p>3 初発の感想を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>よりよい情報を選ぶ力を身に付けるってどうすればいいのかな。</p> </div> <p>4 メディア・リテラシーにかかわる</p>	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の定着のため、難語句や新出漢字をチェックし、家庭学習の内容を全体で確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="color: blue;">発問1：感想を書いてみましょう。内容を理解するためのヒントになるような感想を発表してみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて知ったことを含めた感想と内容の読み取りにかかわる疑問とを分類することで、課題を</li> </ul>

<p>感想の中から、読みの観点を考える。</p> <p>ニュースにいろいろな種類があるなんて考えたことはなかったな。それぞれのニュースの伝え方が違うなんておどろいた。</p> <p>メディア・リテラシーって初めて聞いたけど、大切なことなんだ。小見出しをつけたり、メディアの特徴を考えていったりすると、詳しく分かるようになるかな。</p> <p>5 単元の学習課題を知り、学習に対して見通しをもつ。</p> <p>学習課題：さまざまなメディアからの情報との付き合い方を考えよう</p>		<p>焦点化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>初発の感想を全体で確認しながら、読みの観点を設定する。</li> </ul> <p>◇新聞、ラジオ、テレビなどのメディアにはたくさんの種類があることやそれぞれに特性があることを知り、学習への見通しをもつことができる。 (ノート、発言)【関】</p> <p>発問2：情報と付き合っていくってどんなことかな。考えていきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第3次での言語活動についての学習課題を知ること、学習に対して興味をもてるようにする。</li> <li>日常生活でのさまざまなメディアからの情報にかかわることへの関心を高められるように、情報を収集する機会をもつように伝える。</li> </ul>
<p>&lt;本時のまとめをする&gt;</p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習について、学習の見通しという点で振り返るようにする。</li> </ul>

<2/7>

- (1) ねらい 題名を手がかりにおおまかな内容をとらえることで、文章構成を理解する。  
(2) 準備 関連教材集 ワークシート ポイントカード 拡大した本文  
(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p>&lt;本時の課題を把握する&gt;</p> <p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>読みの観点① 題名・構成</p> <p>文章の構成を考えよう</p>	<p>2分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を想起し、学習課題から、本時の学習内容を理解できるようにする。</li> </ul>
<p>&lt;課題を追究する&gt;</p> <p>2 関連教材を知り、自分の興味のある教材を並行読書教材として選ぶ。</p> <p>&lt;関連教材&gt;</p> <p>「テレビとの付き合い方」 「言葉と事実」 「メディアとのつき合い方」 「ゆるやかにつながるインターネット」</p>	<p>10分</p> 	<p>発問1：教科書のテーマと内容の似ている文章があります。同じところや違うところを比べながら読んでいきましょう。</p> <p>☆教師が選定した関連教材を提示し、他の教科書の5年生の教材であること、内容が教科書教材と同じテーマであることなどを伝え、児童の負担感を軽減できるようにする。 ◎選べない児童には教材文と構成が一番似ている「ゆるやかにつながるインターネット」を選ぶように助言する。</p>
<p>3 教材文の文章構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な文章構成図をかく。</li> </ul> <p>構成が序論・本論・結論になっている。 題名から考えると、情報に関することが書かれているようだ。 大事なことは最後の方に書いてあるな。</p>	<p>20分</p> 	<p>発問2：題名があらわすことはどこに書かれていますか。5年生までの学習を思い出して、要旨を考えながら文章の構成を考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な文章構成図についても、既習事項を思い出させながら各自で書かせるようにする。</li> </ul> <p>◇説明している内容のまとまりをおおまかにとらえ、三段構成の文章構成であることを理解することができる。 (ワークシート、発言)【言】</p>
<p>4 並行読書</p> <p>①関連教材を読み、読みの観点①についてまとめる。 ②同じ教材を選んだグループで読みの観点について確認する。</p> <p>意味段落ごとに、何が書かれているか考えればいいんだね。</p>	<p>10分</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ文章を選んだメンバーでグループを作る。</li> <li>各自で選んだ関連教材を読み読みの観点①についてまとめる時間を確保する。</li> </ul> <p>◎漢字に読み仮名を振った文章を用意する。 グループで読みを確認することで、自分の読み取りを確かめ、学習の転移を意識できるようにする。</p>
<p>&lt;本時のまとめをする&gt;</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>3分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習について、文章構成という視点で振り返るようにする。</li> </ul>

<3 / 7>

- (1) **ねらい** 問いと答えの文を手がかりに意味段落毎の要点をとらえ、小見出しを付けて内容を理解する。  
 (2) **準備** ワークシート ポイントカード 拡大した本文  
 (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p>&lt;本時の課題を把握する&gt;                      1 本時の学習課題を確認し、学習への見通しをもつ。</p> <p>読みの観点② 問いと答え 小見出し</p> <p>段落毎の要点をとらえて、小見出しを付けよう</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章構成図を提示し、前時の学習を想起できるようにする。</li> <li>読みの観点②として、学習課題を提示する。</li> </ul>
<p>&lt;課題を追究する&gt;                      2 問いと答えの文をおさえ、内容を大まかにとらえながら意味段落に小見出しを付ける。</p> <p>○自力読み                      ○ペア交流 (随時)、グループ交流                      ○全体交流</p> <p>文章の中で大事な言葉やまとめている言葉を見つけたいんだな。</p> <p>接続語に注目すると段落のつながりが分かるから、段落の要点も分かるかな。</p> <p>3 並行読書                      ①関連教材を読み、読みの観点②の問いと答えの文の関係を読み取り、サイドラインを引かせる。                      ②グループで確認する。</p> <p>・どの文章も問いと答えの文が出てくる。                      ・問いと答えの文が近かったり、離れていたりするのは構成が違うのかな。</p>	2.5分	<p>発問1：意味段落を短い言葉で表してみましょう。小見出しになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小見出しを自力読みで考えられるように、前時で作成した構成図を参考にできるようにする。</li> <li>早くできた児童には、ペアやグループで意見交流するように伝え、自分の考えをまとめられるようにする。</li> <li>◎中心となる語句がとらえられるように、サイドラインを引き、注目点を示せるようにする。</li> </ul> <p>発問2：①キーワードが使っているか②問いと答えの関係がつながっているかという点で小見出しを吟味してみましょう。</p> <p>◇ 文章全体の構成をとらえて小見出しを付けることができる。                      (ワークシート、発言) 【読】</p> <p>発問3：関連教材での問いと答えの文の関係で気付いたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自で選んだ関連教材を読み、読みの観点②で読み取るための時間を確保する。</li> <li>グループで着目した部分を確認し合い、文章の構成の類似点を確認する。</li> </ul>
<p>&lt;本時のまとめをする&gt;                      5 本時の学習を振り返る。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習で小見出しについての視点で学習を振り返るようにする。</li> </ul>

<4 / 7>

- (1) **ねらい** 事例の内容を読み取り、事例の役割を考えながら筆者の考えとの関係をとらえる。  
 (2) **準備** ワークシート ポイントカード 拡大した本文  
 (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p>&lt;本時の課題を把握する&gt;                      1 本時の学習課題を確認し、学習への見通しをもつ。</p> <p>読みの観点③ 事例</p> <p>事例と筆者の考えとの関係を考えよう</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時での構成表を確認し、文章の内容を振り返る。</li> <li>読みの観点③として、本時の学習課題を提示する。</li> </ul>
<p>&lt;課題を追究する&gt;                      2 事例として挙げられている各メディアの特徴についてまとめる。</p> <p>○自力読み                      ○ペア交流 (随時)                      ○全体での確認</p>	2.5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>表を作成し、読みの観点③にそって、各メディアの特徴についてまとめられるようにする。</li> <li>それぞれのメディアの立場の違いを明確にすることで、メディアがどんな特徴をもち、伝える側がどんな意図をもっているのかをとらえられるようにする。</li> <li>◎前時までの構成表や小見出しを参考にするように助言する。</li> </ul>

<p>3 それぞれのメディアの「伝える側の意図」の違いと筆者の考えとの関係について考える。</p> <p>○ペア交流（随時）、グループ交流 ○全体での確認</p>		<p><b>発問1：メディアの情報の伝え方の違いが、事例として挙げられているのはなぜでしょうか。</b></p>
<p>事例は筆者の考えとつながるように書かれているから、筆者の考えを分かりやすくしているんじゃないかな。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が事例を自分の考えの根拠や理由付けとしていることが理解できるように、事例と筆者の考えの関係を図示する。</li> <li>・自分の考えがもてるように、自力読みの時間を確保する。ペアやグループでの交流を必要に応じて取り入れることで、自分の考えを確かめられるようにする。</li> </ul>
<p>事例があると、筆者の考えがさらによく分かるようになる。事例って必要だな。</p>		<p>◇ それぞれの事例から内容を読み取り、事例の役割を考えながら筆書の主張との関係をとらえることができる。 (ワークシート、発言) 【読】</p>
<p>4 並行読書 ①関連教材を読み、読みの観点③についてまとめる。 ②意見交流する。</p> <p>事例は筆者の考えの根拠となっている。事例と筆者の考えの関係は同じなんだね。</p>	 10分 	<p><b>発問2：関連教材での事例ではどうでしょうか。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読みの観点③についてまとめる時間を確保したあと、グループで読みを確認することで、自分の読み取りを確かめる。</li> </ul>
<p>&lt;本時のまとめをする&gt; 5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習について、事例の役割という視点で振り返り、文章でまとめるようにする。</li> </ul>

< 5 / 7 >

- (1) **ねらい** ニュース番組の比較を通して、筆者の考えに対する自分の考えをもつ。  
(2) **準備** ワークシート ポイントカード 拡大した本文 電子黒板  
(3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p>&lt;本時の課題を把握する&gt; 1 本時の学習課題を確認する。 筆者の考えについて自分の考えをもとう</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの学習の流れを想起できるように、読みの観点①～③での読み取りを振り替える。</li> </ul>
<p>&lt;課題を追究する&gt; 2 三つのニュース番組を比較し、同じ情報でも伝える側の意図によって伝わり方が違うことを確認する。 やっぱり、伝える側の意図が違うと、使っている映像も、インタビューも違うね。 ニュースの伝える内容が、全く違ってくるね。</p>	<p>20分</p>   	<p><b>発問1：三つのニュース映像を見て、伝える側の意図という点でどんなことが分かるでしょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三つのニュース映像は、同じ熊騒動を扱ったものであることを説明し、見る側にどのような印象を与えるのかを比べる視点として示す。</li> <li>・それぞれのニュースから読み取れる、伝える側の意図について発表させ、全体で違いを確認する。</li> </ul>
<p>3 筆者の考えについて自分の考えをもつ。 ○自力読み ○ペア交流（随時）、グループ交流 ○全体での確認 ニュースが編集されているなんて思いもしなかったのとおどろいた。メディアはいろいろあるので、ニュースを正しく判断するようにしていきたい。</p>	<p>10分</p>  	<p><b>発問2：筆者がみんなに伝えたいことについて、どんなことを考えましたか。筆者への自分の返事を考えてみましょう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考えについて、事例や自分の経験、ニュースの視聴などから、自分で考えたことをまとめられるようにする。</li> <li>・意見交流で得られたヒントや助言などを基に、文章表現などを修正する時間を確保する。</li> </ul>
<p>メディア・リテラシーの力をつけることは大切だと思った。よりよい情報を選ぶ力を付けることは必要だと思った。</p> <p>4 並行読書 ①教科書教材と関連教材の共通点を考</p>	<p>5分</p> 	<p>◇ ニュースの比較を通して、読み取ってきたことを確かめ、筆者の考えについての自分の考えをもつことができる。 (ワークシート、発言) 【読】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自で選んだ関連教材と教科書教材には、事例や筆者の考えなどで共通点があることに気付けるようにする。</li> </ul>

える。 ②意見交流する。		
<本時のまとめをする> 5 本時の学習を振り返る。	5分	・本時の学習について振り返り、文章でまとめられるようにする。

<6/7>

(1) ねらい 教科書教材と関連教材を比べながら、メディアを活用していくことについて自分の考えをもつ。

(2) 準備 ワークシート ポイントカード

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<本時の課題を把握する> 1 本時の学習課題を確認し、学習への見通しをもつ。 <b>それぞれの筆者のメッセージを比べよう</b>	5分	・本時の学習課題から、教科書教材と関連教材の筆者の考えをそれぞれのメッセージととらえ、比べて考えることを確認する。
<課題を追究する> 2 自分で選んだ関連教材の要旨をとらえながら、筆者の考えをまとめる。  ○自力読み ○グループ交流	20分	<b>発問1：それぞれの関連教材の筆者の考えをまとめてみましょう。</b>  ・第2次での読み取りを読みの観点で確認する。 ・グループで意見交流し、共通点やグループで大事だと確認した点についてまとめる視点で、グループで交流できるようにする。 ◎サイドラインを引くことで、要点に着目できるようにする。
3 二つの教材の筆者の考えから、情報を受け取る側が考えなければいけないことについて自分の考えをもつ。  <筆者の考えの共通点に着目した姿> <b>「メディア・リテラシー入門」でも「ゆるやかにつながるインターネット」でも、筆者は、情報やメディアを使うわたしたちがどのようにそれを使うかが大切だと言っている。自分たちが使い方を考えることが必要だ。</b>		<b>発問2：筆者のメッセージに対して、どのように答えますか。自分の考えを書いてみましょう。</b>  ・グループの意見を全体で確認し、違う筆者の文章でも読者に伝えたい考えは同じであることを実感できるようにする。 ・自分の考えを書くときには、引用や事例を使って、考えの根拠やその理由として示すことをおさえる。
<筆者の考えと自分の生活との関連に着目した姿> <b>「メディア・リテラシー入門」で、ニュースは編集されていることを知ったが、「言葉と事実」では、伝える側がどのような目的や見方で言葉を使っているかを考えることが必要だと言っていた。メディアリテラシーの力は、普段の生活にも役に立つ。</b>	  	◎二つの文章の共通点に着目させるようにする。  <b>◇ 比べて読んだ文章から、メディアと付き合い合っていくことについての自分の考えをもつことができる。 (ワークシート、発言)【読】</b>
<本時のまとめをする> 5 本時の学習を振り返る。	5分	・本時の学習について振り返らせ、文章でまとめられるようにさせる。

<7/7>

(1) ねらい いろいろなメディアからの情報を自分の生活に生かしていく方法について考える。

(2) 準備 ワークシート 小黒板

(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<本時の課題を把握する> 1 本時の学習課題を確認し、学習への見通しをもつ。 <b>情報との付き合い方を考えよう</b>	5分	・前時までの学習を振り返り、自分の考えを確認する。

<課題を追究する>

2 グループ交流でそれぞれの意見を発表し合い、自分の考えをまとめる。



発問1：自分たちの考えを発表し合ひましょう。友だちの考えと同じところや違うところを考えながら聞きましょう。

3 グループの意見をまとめる。  
・小黒板にグループの意見をまとめる。

20分

- ・前時でまとめた自分の考えをグループ交流の場で発表し、助言やヒントを基に、自分の文章に必要な修正や加筆などができるようにする。
- ◎グループの友だちの考えを鵜呑みにすることのないように、自分の考えに不足していることを加筆していくように助言していく。
- ・意見を無理に一つにまとめなくても良いこと、多数意見がよいとは限らないことなど、意見を深めながらまとめることの基本を確認する。

4 学級全体でそれぞれのグループの考えを知り、学習課題についての自分の考えをまとめる。

15分

わたしたちが毎日聞いているニュースは、実は、編集されていて、いつも正しいとは限らない。情報を伝えるメディアもたくさんあって、伝える内容に違いがあることを知りながら情報を受け取らなければいけない。情報と上手につき合って、利用していきたい。



◇ 学習を振り返り、情報と付き合っていく方法について自分の考えをもっている。  
(ワークシート、発言) 【関】

<本時のまとめをする>

5 本時の学習を振り返る。

5分

- ・本単元の学習について振り返り、文章にまとめられるようにする。

国語科学習指導案（4年）

1 単元名 「感想交流会をしよう」

～ 作品世界から感じたことを自分の生活へと振り返り、自分の考えをもつ～

教材名「ごんぎつね」「手ぶくろを買いに」新美南吉

2 考察

(1) 教材観

<①学習内容：学習指導要領上の位置付け>

- ・「C読むこと」：ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」  
エ「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりする」
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」：イ(ア)「言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと」

<②伸ばしたい資質・能力>

- ・登場人物の気持ちの変化を叙述を基に読む力
- ・文章から必要な情報を取り出す力
- ・自分の考えを適切な言葉で表す力

<③単元を貫く言語活動>

- ・言語活動：「感想発表会をしよう」
- ・本単元での教材「ごんぎつね」は、「ごん」と「兵十」のかかわりを中心に、ごんの視点で語られる物語である。主な登場人物が二人に絞られているので、登場人物の心情を情景と結び付けながら想像することに適している教材と言える。そこで、登場人物の心情を自分の経験と照らし合わせて読み取り、感想として自分の考えを言語化する活動を言語活動として取り入れる。

<④教材文の特徴>

- ・教科書教材「ごんぎつね」は、新美南吉の代表作であり、長く4年生の教科書に教材として扱われている物語文である。人間に対していたずらを重ねる一人ぼっちの小狐ごんは、兵十へのいたずらを後悔して償いをしていくうちに、母親に死なれ自分と同じ一人ぼっちになった兵十との心の交流を求めるようになる。しかし、その思いは、ごんの死をもってしか通じ合うことができなかったという物語は、児童に悲劇として鮮烈な印象を残す。

ごんのひたむきな償いの行為は児童の深い共感と呼び、ごんを撃つ兵十の行為を酷いととらえてしまう児童が多いと考えられる。しかし、人間である兵十の立場へと視点を転じれば、ごんは「ぬすつとぎつね」でしかなく、ごんがどんなに心を傾けても二人の間には超えられない溝がある。最後の悲劇は、必然なのである。児童の思いは、ごんの思い、兵十の思いを的確に読み取ることで、物語で語られる「他者と分かり合いたいという純粋な思い」への共感と感動を味わうことへとつながっていくと考える。登場人物の言動や場面の様子、鮮やかな色や自然の豊かな情景などの叙述に着目したり、心情の変化が場面の出来事とどのようにかかわっているのか考えたりしていくことで物語を豊かに読み、自分の考えを感想としてまとめる教材として適していると考えられる。

- ・関連教材の「手ぶくろを買いに」は、「ごんぎつね」と同じ狐が主人公の物語であり、新美南吉の代表作である。また、3年生の教科書教材に採用されているように、物語の展開がはっきりしていて、各場面のイメージが浮かびやすい物語であるため、児童が情景をとらえやすい物語である。場面展開や叙述に着目することで登場人物の心情変化をとらえやすいため、並行読書教材として適していると考えられる。

<⑤必要な指導・活動>

- ・登場人物の心情やその変化について叙述に即して読み取らせるために、時代背景、人物像などの物語の設定、自然描写のすばらしい記述など、物語を理解する上で重要なポイントを「読みの観点」として読み取りに位置付け、自力読みができるようにしていく。
- ・人物の心情を読み取り、その変化をとらえることで物語を豊かに理解するために、関連教材で比べ読みをする並行読書型授業を設定する。

#### <⑥今後の学習の活用>

- ・同じ作者、同じテーマなどに着目しながら、自分の読書生活を広げていけるようにする。

### (2) 児童の実態及び指導方針

#### <これまでの既習の内容>

- ・7月の物語教材「ポレポレ」で、登場人物の性格や時、場所などの作品の設定をとらえたり、行動や会話などの場面の様子から人物の心情を想像したりすることを学習のねらいに、並行読書型授業プランで学習してきた。

#### <本単元にかかわる実態及び指導方針>

～「児童の実態」は省略～

- ・読みの観点を生かした読み取り学習を展開部に位置付けることで、7月の「ポレポレ」の学習を想起させ、児童が自信をもって自力読みができるようにする。
- ・教科書教材の読みを深め、児童が自分の考えをもてるようにするために、新美南吉の作品で狐を主人公にして同じテーマを扱った「手ぶくろを買いに」を関連教材として並行読書型の授業を設定していく。

### 3 研究とのかかわり

今日、子どもたちは、図書や新聞、テレビ、インターネットなどの様々なメディアからの多種多様な情報に囲まれて生活している。このような中、平成8年の中央教育審議会の第1次答申において「真に必要な情報を取捨選択し、自らの情報を発信し得る能力を身に付けることは、子どもたちにとってこれからますます重要」といった指摘がされた。そして、それ以降、子どもたちが自らの力で情報を活用していくことの重要性への注目がされてきた。このような時代背景や PISA 調査における我が国の児童生徒の課題等を受けて、国語科においては、従来の文字言語による「理解」による受信型の国語の学習だけでなく、自らの考えを基にした「表現」を中心とした発信型の学習が重視されてきている。これは、現行の学習指導要領の改訂の趣旨の中で、内容の改善で重視することとして「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力の育成」が挙げられていることから明らかである。さらに、「はばたく群馬の指導プラン」においても、児童生徒の課題として「考えたことを表現する力や日常生活と結び付ける力」が挙げられ、課題解決のための取組例が示されている。このことは、所属校の児童の実態で、「感想や自分の体験は書けるが、文章等から読み取ったことを活用し、自分の考えをもち、表現すること」に課題があると感じている点で、同様である。

そこで、本研究では、この課題に向き合うためには、教材や資料などの情報を取り出して組み合わせたり比べたりする学習活動を設定する必要があると考え、情報を活用する学習活動を位置付けた「並行読書型の授業プラン」を設定する。

情報を活用して自分の考えをもつためには、比較したり、関連付けたりする活動を学習過程に取り入れることが必要であると考え。

本単元では、物語世界を味わいながら物語のテーマについて考えるために、登場人物の心情変化をとらえるモデル学習として関連教材「手ぶくろを買いに」を並行読書で読んでいくこととする。二つの作品は、作者の伝えたいテーマが同じであり、主人公も同じ狐であることから、比べて読むことによって児童が読みを深めながら、自分の考えをもてるようになると思われる。

### 4 単元の目標

場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むことができる。

5 指導計画（全9時間予定）

時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動	関	読	言		
		活用させたい知識等	思考力・表現力等						
第1時 第2時	課題把握	・ 語句の意味の理解	・ 文章の内容をおおまかにつかむ力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主教材文を読み、感想をもつ。</li> <li>・ 物語のあらすじをつかむ。</li> <li>・ 物語の設定を理解し、ごんの人物像をとらえる。</li> <li>・ 登場人物の心情が分かる言動や様子などの叙述を抜き出し、人物の心情を想像する。</li> <li>・ 情景描写や細かな人物の様子を伝える記述に着目し、人物の心情変化をつかむ。</li> <li>・ 物語の結末について話し合い、自分の考えを感想としてまとめる。</li> </ul>	○				
		・ 物語の設定を理解する力	・ 登場人物の性格をとらえる力					○	○
		・ 心情を表す表現をとらえる力	・ 文章から必要な情報を取り出す力					○	
第3時 第7時	課題追究	・ 大事な言葉や文を適切に書き抜く力	・ 叙述から登場人物の心情をとらえる力 ・ 自分の経験と結び付けて考える力 ・ 自分の考えをまとめる力	○					
		○							
		○							
第8時 第9時	まとめ	・ 関連教材に教科書教材で学習した内容を転移させる力	・ 必要な情報を関連付けて考える力	・ 関連教材を読み取り、物語のテーマについて自分の考えをもつ。 ・ 感想を交流し、自分の考えを深める。	○				
			・ 今後の学習を見通しながら、身に付けたことについて考えをまとめる力	・ 単元全体を振り返り、観点に沿って学んだことをまとめる。				○	

6 指導と評価の計画（全9時間予定）

次過程	言語活動	時間	研究とのかかわり	主な学習活動 及び 評価
第1次 課題把握	並行読書で感想を交流する (作品世界から自分の生活を見つめ直す)	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>作者新美南吉を知り、作品に興味をもつ。</li> <li>教師による主教材の範読を聞き、初発の感想をもつ。</li> <li>新出漢字、難語句の意味を確認する。</li> <li>学習課題や学習計画を知り、学習の見通しをもつ。</li> </ul> <p>感想交流会をしよう ～作品の世界から自分の生活へ～</p> <p>【関】 感じたことや考えたこと初発の感想として伝え合うことができる。</p> <p>読みの観点② あらすじ</p> <p>読みの観点① 人物・時・場所</p> <p>関連教材 「手ぶくろを買いに」</p>
		2	見通し① 「おもしろそう」「読んでみたい」と思わせる関連教材との出会いに興味をもつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語の設定をとらえる。</li> <li>自然描写に着目して、物語の舞台について理解する。</li> <li>場面ごとの出来事をとらえて、物語のあらすじを理解する。</li> </ul> <p>【読】 物語の設定やおおまかな内容を理解することができる。</p>
第2次 課題追究	並行読書で感想を交流する (作品世界から自分の生活を見つめ直す)	3		<p>読みの観点③ 登場人物の性格</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場面1を読み、前時で読み取った物語の背景や主人公「ごん」の人物像について、叙述を基に、確認していく。</li> <li>叙述を引用しながら、いたずらをする「ごん」の心情を想像する。</li> </ul> <p>【読】 いたずらをする「ごん」の心情を想像することができる。</p>
		4		<ul style="list-style-type: none"> <li>場面2、3を読み、いたずらを後悔する「ごん」の心情を叙述を引用しながら、読み取る。</li> <li>「ごん」の償いの意味を考える。</li> </ul> <p>【読】 いたずらを後悔する「ごん」の心情を想像することができる。</p>
		5		<ul style="list-style-type: none"> <li>場面4、5を読み、「兵十」への「ごん」の思いを叙述を基に想像し、「ごん」の「兵十」への気持ちが変化していることを読み取る。</li> <li>「ごん」の償いの意味の変化を考える。</li> </ul> <p>【読】 兵十への気持ちが変化していく「ごん」の心情を想像することができる。</p>
		6	比べる 見通し② 主教材の読みを関連教材の読みで繰り返すことで、教材の読みが深まる	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連教材「手ぶくろを買いに」について、作品設定やあらすじなどを確かめる。</li> <li>場面の様子や登場人物の言動などの叙述から、気持ちの変化がどのように表現されているのかを確かめる。</li> <li>最後のつぶやきから母狐の気持ちを読み取り、気持ちが変化するということは、どんなことなのか考えられるようにする。</li> </ul> <p>【読】 「手ぶくろを買いに」の母狐の気持ちについて考えることができる。</p>
第3次 まとめ	並行読書で感想を交流する (作品世界から自分の生活を見つめ直す)	7	人物の心情変化をとらえるための技能の習得 関連教材を情報として活用	<p>読みの観点④ 主題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場面6を読み、撃たれた「ごん」の様子やごんの行いを知った「兵十」の気持ちを想像して表現を味わう。</li> <li>前時でのそれぞれの心情の読み取りを基に、「ごん」の行動にある思いや「兵十」の驚きの大きさを実感をもって理解し、作品の主題を考える。</li> <li>「ごんぎつね」の感想をまとめる。</li> </ul> <p>【読】 兵十の気持ちを読み取り、主題について自分の考えをもつことができる。</p>
		8	まとめる 見通し③ 第2次で読み取ったことを基に、関連教材のまとめをして自分の考えをまとめる	<ul style="list-style-type: none"> <li>「手ぶくろを買いに」の主題をとらえ、自分の考えをもつ。</li> <li>グループで自分の考えを交流し、自分の考えをまとめる。</li> </ul> <p>【読】 「手ぶくろを買いに」の主題をとらえ、自分の考えをもつことができる。</p>
		9		<ul style="list-style-type: none"> <li>新美南吉の二つの作品を比べて、作者が伝えたいことについて自分なりの考えをもつ。</li> <li>感想として自分の考えをまとめ、感想を交流し合うことで、学びを広げる。</li> <li>単元全体を振り返り、自分の学びをまとめることで、身に付いた力を意識できるようにしていく。</li> </ul> <p>【関】 学習を振り返り、作品と自分の経験とを比べて自分の考えをもつことができる。</p>



<p>3 6つの場面ごとに出来事をとらえて、あらすじを理解する。</p>		<p>発問1：それぞれの場面で、どんな出来事がありましたか。「ごん」を主語にして考えてみましょう。</p>
<p>主人公は「ごん」だから、ごんがしたことを中心に考えていけばいいのね。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「ごん」の行動を手がかりにすることで、物語のあらすじが理解できることに気付けるようにする。</li> <li>6の場面は視点が「ごん」から「兵十」に変わっていることをおさえる。</li> </ul>
<p>「ボレボレ」でも学習したよ。</p>		
<p>4 自然描写を読み取り、自分の経験と照らし合わせながら物語世界を理解する。</p>		<p>発問2：物語の舞台になっている場所はどんなところでしょう。どんな場所なのか、よく分かる表現や自分がいいなと思う表現とその理由を挙げてみましょう</p>
<p>この間の台風の後、川を見た時の様子が同じようだった。おじいちゃんが、川でよく魚を捕ったって言ってたよ。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>「ごん」と「兵十」の出会いの場面に注目することで、大雨の後の川や兵十が魚を捕る場面の情景描写のすばらしさに気付けるようにする。</li> <li>自分の経験から、同じような情景をすることで、物語世界を身近に感じられるようにする。</li> </ul>
<p>兵十が魚をつかまえている様子が、とても想像しやすい。くわしく様子を書いてみると、テレビの画面を見ているみたい。</p>		<p>◇物語の設定やおおまかな内容を理解することができる。 (ワークシート、発言) 【読】</p>
<p>&lt;本時のまとめをする&gt; 5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>1 5分</p>	<p>5分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習について振り返り、文章でまとめられるようにする。</li> </ul>

< 3 / 9 >

- (1) ねらい 叙述を基に「ごん」の人物像をとらえ、いたずらをする「ごん」の心情を想像する。  
(2) 準備 ごんと兵十のイラスト 関連教材「手ぶくろを買いに」 ワークシート  
(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p>&lt;本時の課題を把握する&gt; 1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>読みの観点③ 「ごん」の人物像を考えよう</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を想起させ、本時の学習内容を理解できるようにする。</li> </ul>
<p>&lt;課題を追究する&gt; 2 場面1を音読する。 ・一斉音読する</p> <p>3 「ごん」の人物像について考える。</p> <p>「ひとりぼっち」だから寂しがり屋なのかな。 「いたずらばかり」するから、いたずら好きなのかな。</p> <p>小ぎつねって、体が小さいってことで、子どもではないということなんだね。</p>	<p>20分</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員で音読することで、学習する範囲を確認できるようにする。</li> </ul> <p>発問1：「ごん」はどんな狐なのでしょう。本文から根拠を探して、それを基に考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いたずらの内容や兵十の言葉に注目することで、ごんが村の人たちから、どのように思われているのか、とらえられるようにする。</li> <li>「小ぎつね」に着目し、子どもではないことに気付くようにする。「手ぶくろを買いに」では、小ぎつねであることを確認する。</li> </ul> <p>◎場面1の叙述から「ひとりぼっちの小ぎつね」「いたずら」の叙述に注目できるようにする。</p>
<p>4 いたずらをする「ごん」の気持ちを考える。</p> <p>ごんのいたずらは、人のめいわくになることばかり。本当は、悪い狐なのかもしれない。</p> <p>人間に対してとても興味があって、自分から寄っていく感じがする。</p>		<p>発問2：「ごん」の行動から、気持ちを読み取ってみましょう。どうして、そんなことをするのか、想像してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「兵十か」に着目することで、すぐに名前が分かるほど、ごんの人間に対する興味が高いということに気付けるようにする。</li> </ul>



<p>&lt;課題を追究する&gt;</p> <p>2 場面4、5を音読する。 ・一斉音読する</p> <p>3 場面4、5から「ごん」の心情が分かる記述を抜き出す。</p> <div data-bbox="159 347 614 470"> <p>「二人の話を聞こうと思って、ついできました」とあるから、ごんは兵十がすごく気になるんだと思う。</p> </div> <div data-bbox="159 481 614 638"> <p>「おれにお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃない、おれは、引き合わないな」から、兵十に気付いてほしい気持ちが強い。</p> </div> <p>4 つぐないをする「ごん」の気持ちを考える。</p> <div data-bbox="199 739 662 907"> <p>人間にみつからないように、くりをとどけてつぐないをしているから、神様のしわざと思われれば都合がいいのに、ごんは「つまらない」と言っている。きっと、気付いてほしいんだ。</p> </div> <div data-bbox="199 918 662 1086"> <p>神さまのしわざと思われていても、くりをとどけることを続けているから、兵十への気持ちは、ただのつぐないという気持ちだけじゃあないかもしれない。</p> </div>	<p>20分</p>   <p>15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員で音読することで、学習する範囲を確認できるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="821 280 1460 380"> <p>発問1：場面4と5の中から、「ごん」の気持ちが分かるところを抜き出してみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ごんの視点から語られる兵十と加助の会話場面の詳しい叙述から、兵十の様子を知りたいという「ごん」の思いが強いことをおさえる。</li> <li>ごんが村人の名前や家、御念仏などの行事をよく知っていることをおさえることで、ごんの人間に対する興味の高さに気付けるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="821 638 1460 728"> <p>発問2：「ごん」の行動から、気持ちを読み取ってみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えの根拠として、自分が着目した本文の記述を必ず抜き出すようにする。</li> <li>「つぐない」ということのごんにとっての意味について考えさせる。</li> </ul> <div data-bbox="821 929 1460 1075"> <p>◇兵十への気持ちに変化している「ごん」の心情について、叙述を基に想像することができる。 (ワークシート、発言) 【読】</p> </div>
<p>&lt;本時のまとめをする&gt;</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習について振り返り、文章でまとめられるようにする。</li> </ul>

<6/9>

- (1) ねらい 関連教材「てぶくろを買いに」を比べ読みをする中で、母ぎつねのつぶやきに着目し、人物の心情変化について考える。
- (2) 準備 関連教材「手ぶくろを買いに」 ワークシート
- (3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p>&lt;本時の課題を把握する&gt;</p> <p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="127 1489 686 1545"> <p>読みの観点③ 心情の変化について考えよう</p> </div>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を想起させ、本時の学習内容を理解できるようにする。</li> </ul>
<p>&lt;課題を追究する&gt;</p> <p>&lt;比べる&gt;</p> <p>2 関連教材「手ぶくろを買いに」の読みの観点①を基に、内容を確認する。 ・時 ・場所 ・人物</p> <p>3 「手ぶくろを買いに」で、登場人物の気持ちの変化をとらえる。</p> <div data-bbox="151 1848 614 1960"> <p>気持ちの変化のきっかけになることは、物語のクライマックスとつながっている。</p> </div> <div data-bbox="151 1982 614 2060"> <p>情景描写に注目すると、人物の気持ちがよく分かることがあるね。</p> </div>	<p>20分</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語を理解するためには、作品の設定をおさえることを想起できるようにする。</li> <li>人物象をおさえながら、物語のおおまかなあらすじを確認する。その際、「ごんぎつね」との類似点について考えられるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="805 1758 1444 1848"> <p>発問1：登場人物の気持ちが大きく変わったところはどこでしょう。その根拠も挙げてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>「手ぶくろを買いに」では、母狐の心情が大きく変わっていることに気付くことで、最後の母狐の言葉について考えられるようにする。</li> <li>行動の様子を表す表現を根拠として、人物の心情は想像できることを確かめ、自分が着目した本文の記述を必ず抜き出すようにする。</li> </ul>

<p>4 母ぎつねの最後のつぶやきについて考える。</p> <div data-bbox="127 235 646 380">  <p>子ぎつねが手ぶくろを買えたことから、人間に対する気持ちが変わってきている。でも、人間はいいものという気持ちになってはいない。</p> </div> <div data-bbox="159 392 686 548">  <p>いいものかしらって繰り返しているほど、考えられないことが起こったから、母ぎつねの気持ちは大きくゆれているんだ。</p> </div> <p>・交流して自分の考えをまとめる。</p>	<p>1 5 分</p>	<div data-bbox="821 190 1444 280">  <p>発問2：最後のつぶやきから、母狐の心情を考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>母狐の今までの行動などから、つぶやきの意味を考えられるようにする。</li> <li>ラストシーンから、気持ちが揺さぶられる「葛藤」や気持ちの揺れを象徴する「余韻」について、十分に味わえるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="813 526 1452 638" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇「手ぶくろを買いに」の母狐の気持ちについて考えることができる。 (ワークシート、発言) 【読】</p> </div>
<p>&lt;本時のまとめをする&gt; 5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>5 分</p>	<p>・本時の学習について振り返り、文章でまとめられるようにする。</p>

<7/9>

- (1) ねらい 前時の「手ぶくろを買いに」での人物の心情をとらえる着眼点を生かして、「兵十」の心情を読み取り、物語の主題について自分の考えをもつ。
- (2) 準備 ワークシート
- (3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p>&lt;本時の課題を把握する&gt; 1 本時の学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="127 1108 694 1164" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>読みの観点④ 主題 自分考えをまとめよう</p> </div>	<p>5 分</p>	<p>・前時の学習を想起させ、本時の学習内容を理解できるようにする。</p>
<p>&lt;課題を追究する&gt; &lt;比べる&gt; 2 場面6を音読する。</p> <p>3 兵十の気持ちを考える。</p> <div data-bbox="159 1344 566 1545" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・くりをとどけてくれたのが、ごんだとわかってびっくりしている。「どうして？」という気持ちでいっぱいだと思う。 ・いたずらをしにきたのではないのに、撃ってしまった。</p> </div> <p>4 「青いけむりが、まだつつ口から細く出ていました」の一文について考える。</p> <div data-bbox="127 1736 670 1948" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・とても静かな時間を表している感じがする。 ・「手ぶくろを買いに」も最後の文が母ぎつねの気持ちを表していて、想像できる終わり方だった。ごんと兵十は、何を考えていたのだろう。</p> </div>	<p>1 5 分</p>	<div data-bbox="790 1276 1428 1332" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問1：「兵十」の気持ちを読み取ってみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習する範囲を確認する。</li> <li>場面6では、語りの視点が「ごん」から「兵十」へと変わっていることをおさえ、その理由を考えることで、主題を考えるヒントにしていく。</li> <li>兵十の行動描写を丁寧におさえながら、兵十のゆれる心情を想像できるようにする。</li> <li>「ごん、お前だったのか」「ばたりと取り落としました」の叙述を中心に考えるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="805 1646 1460 1724" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問2：最後の文章に込められている意味について考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>「青いけむりが、まだつつ口から細くでていました」の記述に注目し、場面の雰囲気について想像できるようにする。</li> <li>「うなずきました」というごんの様子から、どんなことを読み取れるか考えられるようにする。</li> <li>全体で考えの練り上げを行い、考えを共有できるようにする。</li> <li>初発の感想と比べて、自分の読みが深まったことを実感できるようにする。</li> </ul>

・感想を発表し合い、友達のことを知る。	20分	◇兵十の気持ちを読み取り、主題について自分の考えをもつことができる。 (ワークシート、発言) 【読】
5 <本時のまとめをする> 本時の学習を振り返る。	5分	・本時の学習について振り返り、文章でまとめられるようにする。

< 8 / 9 >

- (1) ねらい 「ごんぎつね」の主題について自分の考えをもつ。  
(2) 準備 ワークシート  
(3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<本時の課題を把握する> 1 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">作品の主題について考えよう</div>	5分	・前時の学習を想起させ、本時の学習内容を理解できるようにする。
<課題を追究する> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">&lt;まとめる&gt;</div> 2 作品の主題について考える。 ・自力読み ・グループ交流 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">人間もきつねも、相手をよく見たり、正しいことをしようとしたりすれば、きっと、わかり合える。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">わかり合うということは、難しいことだけれど、相手のことを思ったり、正しいことをしたりしていれば、できると思う。</div>	15分	・前時での読み取りを振り返り、全体でのまとめを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">発問1：作者の新美南吉が、読む人に伝えたかったことはどんなことでしょう。</div> ・二つの作品のラストシーンでの登場人物の心情に注目することで、人間と狐という関係だけに当てはまることなのか、自分の経験と照らし合わせて考えられるようにする。 ・自分の経験と照らし合わせた考えを引き出せるように意図的に指名していく。 ・グループ交流で自分の考えをまとめられるようにする。 ・自分の考えの根拠として、自分が着目した本文の記述を必ず抜き出すようにする。
3 物語の主題を自分の経験と照らし合わせて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ごんの思いがやっと兵十に届いたと思ったら、ごんは撃たれてしまった。ごんと兵十の立場が違いすぎるから、思いが通じ合うのは難しい。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">兵十は、ごんのこと「ぬすぎつね」と思っていた。だから撃ってしまうことは当たり前。通じ合うということは、お互いの気持ちが必要なんだ。</div>	20分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">発問2：考えたことをまとめてみましょう。</div> ・自分の考えに加筆したり、修正したりして考えを深めていけるように、全体で交流した意見を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">◇作品の主題について自分の考えをもつことができる。 (ワークシート、発言) 【読】</div>
5 <本時のまとめをする> 本時の学習を振り返る。	5分	・本時の学習について振り返り、文章でまとめられるようにする。

< 9 / 9 >

- (1) ねらい 二つの作品から考えたことを自分の感想としてまとめ、伝え合う。  
 (2) 準備 ワークシート  
 (3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p>&lt;本時の課題を把握する&gt;</p> <p>1 本単元の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">感想交流会をしよう</div>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時までの学習を想起させ、単元での学習をまとめることを確認する。</li> </ul>
<p>&lt;課題を追究する&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">&lt;まとめる&gt;</div> <p>2 作者新美南吉が伝えたいことは何か考え、作品の感想としてまとめる。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 250px;"> <p>わたしは、自分の一方的な思い込みで、友だちとけんかしたことがある。相手の立場になって考えることがとても大切だと思った。ごんのおさみしさも分かるような気がする。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 250px; margin-right: 10px;"> <p>お互いが分かり合うことの大切さや難しさを、新美南吉は伝えたいのではないだろうか。</p> </div>  </div> <p>3 感想交流会をする。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 250px;"> <p>それぞれ書き方は違うけど、同じところに注目していた。いろいろな表し方があるのだなと思った。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 250px; margin-right: 10px;"> <p>物語だけど、自分のことと似ているなという感想があった。自分の生活とも比べられるんだね。</p> </div>  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>感想を発表し合い、友達の考えを知る。</li> </ul>	<p>20分</p> <p>15分</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>発問1：作者の新美南吉が、読む人に伝えなかったことはどんなことでしょうか。二つの作品を比べて書いてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>今までまとめてきた、二つの物語の読み取りを振り返り、今までの感想を基に、自分の考えをまとめられるようにする。</li> <li>ごんや兵十、母狐の行動や気持ちの変化などから、自分の経験と照らし合わせて考えられるようにする。</li> </ul> <p>◎今までまとめてきたワークシートやノート、書き込みなどを見直し、自分の考えを振り返ってつなげていくように助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>発問2：同じところや違うところがあったと思いますが、友だちの感想を聞いてどう思いましたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>感想を発表し合い、さまざまな感じ方や考え方があることを理解できるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>◇主題と自分の経験とを比べて、自分の考えをもつことができる。 (ワークシート、発言) 【読】</p> </div>
<p>&lt;本時のまとめをする&gt;</p> <p>4 単元の学習を振り返る。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習について振り返り、文章でまとめられるようにする。</li> </ul>